

## 目 次

### 〈 繊維情報 〉

・2005年5月の繊維品輸出概況(繊維品全体・原料・織編物・主要二次製品).....	1
・2005年4月の繊維品輸入概況(繊維製品計・糸類・織物類・衣類).....	7
・世界 米国・欧州の対中繊維セーフガード等を巡る現状(4).....	10
・アジア 中国 2005年1～5月の繊維品貿易・輸出は大幅増、輸入は減少傾向が続く.....	15
台湾 2005年1～3月の繊維品貿易・輸出は減少推移、輸入は増加推移.....	20
タイ 2005年1～3月の繊維品貿易・輸出は順調に推移、輸入も高水準で推移.....	23
・米州 米 国 2005年4月の繊維品輸入・中国が引続き大幅に増加.....	26
2005年5月の大手小売店販売、寒い天候にも拘らず堅調.....	30
・欧州 E U EUの新一般特惠関税制度の概要.....	34

### 〈 組合関係の会議と催事 〉

・(2005年6月)(2005年7月のスケジュール).....	35
---------------------------------	----

### 〈 組合業務報告 〉

・輸出組合「平成17年度組合運営に関するタスクフォース(第5次)」を設置(輸出).....	38
・繊維品輸出荷主連合会(TSA)、第19回通常総会を開催(輸出).....	39
・輸入組合「2005年度組合運営タスクフォース(第6次)」を設置(輸入).....	41
・2005年度アパレル委員会海外調査ミッション実施概要報告(輸入).....	42
・2005年度絹委員会訪中ミッション派遣概要(輸入).....	44
・寝具インテリア委員会の「インテリアライフスタイル2005」への出展概要(輸入).....	46
・東京・名古屋・大阪で「貿易実務の基礎研修会」を開催(輸入).....	47
・大阪で「外国為替の基本」講習会を開催(輸出入).....	50
・東京で「繊維の基礎知識」研修会を開催(輸出入).....	51

### 〈 お知らせ 〉

・繊維品の包括保険の「保険責任期間終了」と「保険期間延長手続き」(輸出).....	52
・「ペルー」向け他6カ国の保険引受方針の変更(輸出).....	53
・「アンゴラ」向け他1カ国の保険引受方針の緩和(輸出).....	54
・8月の輸入通関手続相談窓口開設日(輸入).....	55

### 〈 組合員情報 〉

・組合員情報.....	55
・海外取引照会・展示会案内.....	56



## ◎ 2005年5月の繊維品輸出概況

### I. 繊維品全体の輸出

－前年同月比2%増の6億3,092万ドルと微増推移－

2005年5月の繊維品輸出は、ドルベースで、前年同月比2%増（1-5月：前年同期比2%増）の6億3,092万ドルと微増推移となった。

なお、為替は2004年5月の112.35円に対し、2005年5月は106.91円と約5%の円高となっていることから、円ベースでは3%減（同1%減）の674億5,200万円となっている。

#### <主要地域別輸出>

2005年5月の輸出を主要地域別に見ると、全輸出の76%を占める最大市場の東アジア向けは、前年同月比2%増（同1%増）の4億9,000万ドルと微増推移となった。

東アジアの主要国向けでは、最大市場の中国、韓国、ベトナム、タイ、マレーシア、インドネシアが増勢で推移し、香港、台湾、シンガポール、フィリピンは低調な推移となった。

純輸出市場向けは、シェア3%の西アジアは、サウジアラビアが好調に推移、アラブ首長国も微増となり、全体として4%増（同1%増）の1,931万ドルとなった。

欧米市場は、シェア9%のEUは、糸類が健闘したが、織物類は依然低調で、EU全体として1%減（同9%増）の5,231万ドルとなった。また、シェア7%の米国は、織物類はEU同様に不振が続いているが、綿類（綿・糸）の伸びがカバーし、1%増（同4%増）の4,570万ドルとなった。

#### <主要商品別輸出>

5月の輸出を主要商品別にみると、まず綿類の輸出は、全体としては、数量で3%減（同5%減）、金額で9%増（同7%増）と数量減の金額増となった。太宗の合繊綿は、数量で2%減（同5%減）、金額で14%増（同11%増）となった。この内、主力のアクリル綿は、最大輸出先の中国またタイ、イランが量的には減少し、全体としては数量で2%減（同6%減）、但し金額では単価の上昇により14%増（同10%増）となった。

また、ポリエステル綿は、量的には中国、タイは増加したが、欧米が共に不振で、数量で1%減（同6%減）となった。但し、金額では単価の上昇により16%増（同7%増）となった。

その他の合繊綿では、ビニロン綿は、主力のEU向けが不振で、数量で5%減（同18%増）となったが、他の合繊綿同様に単価アップにより金額で6%増（同23%増）となった。

スフ綿は、主力の中国が減少し、数量で6%減（同7%減）、金額で2%減（同4%減）と数量、金額ともに低調な推移となった。

繊維品輸出実績(2005年5月)

単位	2005年5月				2005年1月~5月				2004年実績				
	数量	金額		前年同月比 数量	ドル	数量	金額		前年同期比 数量	円	ドル	金額	
		百万円	千ドル				百万円	千ドル				百万円	千ドル
繊維品総合計	31,342	67,452	630,920	102	172,541	338,937	3,209,978	99	102	427,993	900,766	8,330,992	
原料(綿)合計	3,963	8,053	75,326	97	109	42,485	402,491	95	104	107	99,966	923,956	
スフ綿	24,659	1,426	13,342	94	98	8,672	82,228	93	93	96	23,267	215,237	
合繊綿	3,702	6,428	60,121	98	114	32,476	307,570	95	108	111	73,095	675,403	
(ポリエステル)	18,678	4,586	42,896	98	114	3,328	31,521	94	104	107	8,007	74,063	
(アクリル)	11,029	7,721	72,217	104	106	23,050	218,299	94	107	110	52,514	485,070	
糸 合計	1,215	879	8,217	155	180	3,767	35,684	130	125	128	7,864	72,916	
人絹糸	33	45	418	122	104	209	1,973	109	86	88	591	5,477	
スフ糸	8,701	5,736	53,653	98	100	45,348	288,421	103	103	106	73,641	681,155	
合繊長糸	1,972	1,330	12,440	103	96	7,127	67,588	115	107	110	17,566	162,369	
(ナイロン)	3,479	1,494	13,974	106	117	16,929	70,830	101	114	117	16,719	154,685	
(ポリエステル)	426	327	3,059	94	86	1,779	1,356	70	82	84	4,164	38,476	
合繊短糸	502	311	2,912	172	138	1,482	14,061	110	109	111	3,756	34,881	
綿 糸	90,950	25,567	239,144	93	99	469,031	1,270,031	95	94	96	384,270	3,557,638	
織物合計	581	1,075	10,057	107	104	2,973	51,642	100	96	98	13,304	123,079	
絹織物	6,757	1,882	17,599	107	97	30,811	9,585	90,750	86	88	26,662	246,677	
人絹織物	903	355	3,321	86	102	5,013	19,950	77	77	79	6,923	64,317	
スフ織物	43,781	9,034	84,505	91	99	209,703	43,194	408,884	93	91	129,896	1,201,387	
合繊長織物	4,450	997	9,329	92	108	22,169	4,171	39,437	113	101	11,163	103,187	
(ナイロン)	35,332	6,870	64,261	91	100	163,526	31,733	300,311	91	91	98,356	909,292	
(ポリエステル)	11,599	2,697	25,225	110	119	65,721	14,953	141,730	101	102	166,635	363,303	
合繊短織物	23,311	7,774	72,719	86	90	137,113	46,788	443,501	94	95	123,887	1,149,181	
綿織物	3,881	2,675	25,025	98	109	15,332	10,110	95,729	98	98	42,026	387,539	
毛織物	48,266	4,697	43,934	111	116	235,927	21,756	205,922	111	110	51,660	477,610	
不織布	1,783	279	2,606	137	172	7,207	1,150	10,876	133	151	2,190	20,254	
タイヤコード織物	1,660	4,098	38,327	102	109	7,196	16,676	157,565	107	106	41,001	378,474	
コーテッド織物		5,188	48,525	107		23,450	221,989		103	106	61,999	573,419	
ニット生地		2,424	22,678	60		16,447	156,070		84	86	53,076	489,518	
アパレル		9,425	88,162	106		44,391	420,070		104	107	112,522	1,039,786	
その他													

(注) 1. 繊維品総合計は、HS関税分類11部の合計。 2. 原料(綿)、糸、織物合計は分類番号50類から55類までのそれぞれの合計。

3. アパレルは61類(ニット製衣類)と62類(布帛製衣類)を合算したもの。 4. その他は、63類及び56類~59類の一部商品。

糸類の輸出は、数量で4%増（同4%増）、金額で6%増（同7%増）と、数量・金額共に堅調な推移となった。

主力の合繊（長）糸は、数量で2%減（同3%増）、金額で横ばい（同6%増）となった。その内訳は、ポリエステル糸は、中国を中心とする東アジア、米国が順調に推移し、数量で6%増（同1%増）、金額で17%増（同17%増）となった。

一方、ナイロン糸は、数量ではタイ、EUが好調で3%増（同15%増）となったが、金額では、単価の低下により4%減（同10%増）となった。

その他の合繊（長）糸では、ポリウレタン糸は中国が増加し、数量で2%増（同5%減）となったが、金額では20%減（同13%減）となった。

また、人絹糸は、主力の韓国、中国向けが共に大幅に増加し、EUも好調で、数量で55%増（同30%増）、金額で80%増（同28%増）と好調に推移した。

太宗の織物類の輸出は、数量で7%減（同5%減）、金額で1%減（同4%減）と、数量・金額共に低調な推移となった。

織物の内訳では、中心品目のポリエステル（長）織物は、数量で9%減（同9%減）、金額で横ばい（同7%減）と、依然低迷推移が続いている。

地域的には、全体の70%を占める東アジア向けは、中国、香港は微増推移となったが、台湾、ベトナム、タイ、インドネシア、スリランカが振るわず、東アジア全体として3%減（同4%減）となった。

純輸出市場向けは、西アジアは、サウジアラビアは横ばいに止まったが、最大市場のアラブ首長国が大幅に減少し、西アジア全体として16%減（同16%減）となった。欧米市場向けは引き続き低調で、EU向けは、主要国が軒並み減少し、全体として29%減（同15%減）、また、米国も27%減（同28%減）と大きく後退した。

ナイロン織物は、数量で8%減（同13%増）となったが、金額では単価のアップにより8%増（同3%増）と、数量減の金額増となった。シェア79%の東アジア向けは、主力の中国は増加したが、香港が激減し、11%減（同20%増）となった。一方、シェア10%の米国は1%増（同12%減）の微増推移となった。

綿織物は、数量で14%減（同6%減）、金額で10%減（同2%減）と、数量・金額共に2桁の減少となった。82%のシェアを占める最大市場の東アジア向けは、ベトナム、インドネシアは大幅に増加したものの、中心市場の中国、香港、タイが減少し、東アジア全体としては10%減（同5%減）となった。

その他の市場では、シェア11%の米国が32%減（同15%減）、同4%の西アジアは29%減（同18%増）、同2%のEUは32%減（同8%増）と揃って低調な推移となった。

ポリエステル（短）織物は、数量で11%増（同3%増）、金額で21%増（同4%増）と、主要織物では唯一数量・金額共に好調な推移となった。全体の66%を占める東アジア向けは、香港は減少したものの、最大市場の中国、ベトナムが揃って増加し、東アジア全体として10%増（同横ばい）となった。一方、シェア33%の民族衣装用の西アジアは、クエートは減少したものの、最大市場のアラブ首長国、サウジアラビアが共に増勢で推移し、西アジア全体とし

て19%増（同12%増）と、大きく増加した。

人絹織物は、数量で7%増（同2%減）、金額で3%減（同12%減）と、数量増の金額減となった。シェア71%の東アジアは、中国は減少したが、香港が大幅増加となり、東アジア全体として9%増（同1%増）となった。一方、シェア11%の西アジアは、アラブ首長国は減少したが、サウジアラビアが大きく伸び、全体として5%増（同2%減）となった。

毛織物は、数量で2%減（同2%減）、金額で9%増（同1%増）と、数量減の金額増となった。地域的には、東アジアが96%とほぼ全量を占めている。ベトナムは好調に推移したが、圧倒的なシェアを占める持ち帰り用の中国が横ばいに止まり、香港、フィリピンが低調で、東アジア全体として3%減（同3%減）となった。

不織布の輸出は、数量で11%増（同11%増）、金額で16%増（同13%増）と、数量・金額共に好調に推移した。全体の64%を占める東アジアは、主要国では、香港、台湾は健闘したが、韓国、中国が大幅減となり、全体として13%減（同4%減）となった。一方、欧米市場は揃って好調で、シェア24%の米国向けは125%増（同64%増）、シェア7%のEUも56%増（同57%増）と共に大幅な増加となった。

コーテッド織物の輸出は、数量で2%増（同7%増）、金額で9%増（同8%増）と、数量・金額共に堅調な推移となった。全体の81%を占める東アジアは、最大市場の中国が微増、香港が横ばいで推移し、全体として1%減（同3%増）となった。欧米市場は、シェア8%の米国は76%増（同70%増）と前月に続き大きく増加、一方シェア5%のEUは11%減（同6%増）となった。

ニット生地の輸出は、数量で3%増（同3%増）、金額で7%増（同6%増）と、数量・金額共に堅調な推移となった。全体の約9割強を占める東アジア向けは、主要国別では、最大市場の中国、韓国、ベトナム、インドネシアが増加推移、一方香港、台湾、タイは減少推移となった。欧米市場向けは、前月に続き、米国、EU共に好調に推移した。

アパレルの輸出は、金額で40%減（同14%減）と、大幅な後退となった。内容的には、布帛製衣類は、外衣類は、台湾、香港は堅調に推移したが、米国が激減、中国も振るわず、金額で33%減（同21%増）と大幅な減少となった。下着類も、台湾は健闘したが、香港、中国、韓国が大幅に減少し、金額で21%減（同20%減）となった。

また、ニット製衣類は、ニット製衣類輸出の主力であった香港向けのニットパネル（最終編み立て後米国向け）の輸出が、2005年からの米国の対中国枠の撤廃により、壊滅的に後退しており、外衣類は金額で64%減（同39%減）、下着類も49%減（同28%減）と各々大きく減少した。

## II. 原料（綿・糸）の輸出

### <綿輸出>

5月の合繊綿、スフ綿などの綿合計の輸出は、主要品目では主力のアクリル綿、ポリエステル綿が微減推移、また、ビニロン綿、スフ綿についても減少推移となるなど、いずれの品目も振るわず、全体では3%減の31,342トン、金額については9%増の7,532万ドルとなった。

### <糸輸出>

5月の糸の輸出は、主力品目の合繊長繊維糸が微減、合繊短繊維糸が減少推移となったものの、人絹糸、綿糸が増勢推移となり、全体では4%増の11,029トン。金額についても、6%増の7,221万ドルとなった。

### 2005年5月の原料（綿・糸）の輸出状況

単位：トン、1,000ドル、セント、%

	2005年5月				2005年1～5月			
	数量	前年 同月比	金額	単価	数量	前年 同期比	金額	単価
スフ綿	3,963	94	13,342	337	24,810	93	82,228	331
合繊綿	24,659	98	60,121	244	132,406	95	307,570	232
ポリエステル	3,702	99	6,116	165	19,835	94	31,521	159
アクリル	18,678	98	42,896	230	99,722	94	218,299	219
その他合繊綿	2,279	93	11,108	487	12,849	112	57,750	449
人絹糸	1,215	155	8,217	677	5,444	130	35,684	655
合繊長糸	8,701	98	53,653	617	45,348	103	288,421	636
ナイロン	1,972	103	12,440	631	11,196	115	67,588	604
ポリエステル	3,479	106	13,974	402	16,929	101	70,830	418
その他合長糸	3,250	89	27,238	838	17,224	98	150,003	871
綿糸	502	172	2,912	581	1,952	110	14,061	720

出所：財務省統計

## III. 織・編物（絹・化合繊・綿・毛）の輸出

5月の織物（絹・化合繊・綿・毛）の輸出は、主要織物では、ポリエステル（短）織物が低調な推移となった以外は、ポリエステル（長）織物を始め、綿織物、毛織物が特に量的に低調な推移となり、織物トータルで、数量で前年同月比7%減（前年同期比5%減）、金額で1%減（同4%減）となった。

なお、この織物トータルの中に含まれていないニット生地、コーテッド織物は数量、金額共に堅調に推移した。

### 2005年5月の織・編物(絹・化合織・綿・毛)の輸出状況

単位：1,000SM、1,000ドル、前年比は数量比%

	2005年5月			2005年1-5月		
	数量	金額	前年同月比	数量	金額	前年同期比
絹織物	581	10,057	107	2,973	51,642	100
人絹織物	6,757	17,599	107	30,811	90,750	98
スフ織物	903	3,321	86	5,013	19,950	77
合織(長)織物	43,781	84,505	91	209,703	408,884	93
ポリ(長)織物	35,332	64,261	91	163,526	300,311	91
ナイロン織物	4,450	9,329	92	22,169	39,437	113
合織(短)織物	11,599	25,225	110	65,721	141,730	101
ポリ(短)織物	10,681	23,507	111	60,295	131,310	103
綿織物	23,311	72,719	86	137,113	443,501	94
毛織物	3,881	25,025	98	15,332	95,729	98
コーテッド織物	1,660	38,327	102	7,196	157,565	107
ニット生地	15,332	48,525	103	69,002	221,989	103

(注) 1. ポリエステル(長)、ナイロン(長)織物は、ポリエステル、  
ナイロンの重量が全体の85%以上の織物。

2. コーテッド織物の数量単位はトン。

市場的には、織物トータルで、主力の東アジアは、主要国では中国が唯一数量、金額共に前年同月を上回り堅調に推移した。

その他では、ベトナムが数量減の金額増となったが、韓国、台湾、香港、シンガポール、インドネシア、タイ、フィリピン、マレーシアは軒並み数量、金額ともに前年同月を下回り、低調な推移となった。

また、純輸出市場では、西アジアは、サウジアラビアがポリエステル(短)織物の好調から数量・金額共に2桁の増加となったが、アラブ首長国はポリエステル(長)織物が全く振るわず、数量・金額共に減少した。

また、欧米市場も、主力のポリエステル（長）織物の不振が続いており、米国、EUは揃って、数量・金額共に減少推移となった。

#### IV. 主要繊維二次製品の輸出

繊維二次製品の2005年5月の輸出は、金額（ドル）ベース（以下同じ）で、アパレルは総じて振るわず、布帛製外衣・下着、メリヤス製外衣・下着いずれの品目も大きく減少推移となり、全体では前年同月比40%減となった。その他については、敷物、漁網・その他の網・網地、細幅織物・紐類いずれも増加推移となった。

#### 2005年5月の主要繊維二次製品輸出状況

単位：1,000ドル、金額：前年比%

	2005年5月		2005年1～5月	
	金額	前年同月比	金額	前年同期比
布帛製衣類・付属品	11,623	73	86,614	102
外衣	5,829	67	51,958	121
下着	3,138	79	18,295	80
スカーフ・マフラー	426	96	2,640	111
ニット製衣類・付属品	11,055	50	69,457	72
外衣	3,134	36	19,112	61
下着	5,290	51	37,734	72
敷物	2,437	121	12,319	113
漁網・網・網地	4,435	148	17,070	123
細幅織物・紐類	16,435	105	75,368	106

#### ◎ 2005年4月の繊維品輸入概況

##### 1. 繊維製品計

4月の輸入は、金額が円ベースで前年同期比105.6%（前月比は99.2%）、ドルベースで同105.5%（前月比は97.3%）、数量(重量)で同100.5%（前月比は104.2%）と、円・ドル金額が5ヶ月ぶりに減少した前月から再び増加、数量も2ヶ月ぶりに減少となった前月から微増に転じた。前月比は、夏物軽衣料の入荷ピークを迎えて金額は若干減少したものの、数量は増加した。

糸類は、数量で前年同期比9.9%減と前月より減少幅が拡大し5ヶ月続けて減少、内訳は絹糸、その他の糸が増加、毛糸、綿糸、人織(長)糸、人織(短)糸は減少となった。織物類は同7.0%増と3ヶ月ぶりに微減となった前月から再び増加、毛織物、綿織物、人織(長)織物、人織(短)



織物、メリヤス生地、その他の織物が増加、絹織物、黄麻織物は減少した。衣類は同 0.3%減と前月より減少幅を縮小したものの2ヶ月連続で減少した。衣類を除くインテリア用品等の二次製品は同 5.2%増と6ヶ月続けて増加した。

前月はドル金額が 0.9%の微減、円金額が 3.9%、数量が 4.1%それぞれ減少したが、今月は円・ドル金額が約6%の増加、数量が 0.5%の微増となった。数量の内訳を見ると、二次製品が 5.2%増と増加基調で推移しているのに加え、今月は織物類が増加となったが、糸類が引き続き減少、太宗を占める衣類が 0.3%の微減となり、繊維製品計では 0.5%の微増となった。

## 2. うち糸類

- 綿糸の輸入実績は、トンベースで前月比 10.1%減、前年同月比も 13.5%減と2桁の減少となり1981年8月以来23年8ヵ月ぶりの低水準輸入となった。これは、昨年の二次製品輸入が史上最高を記録、今年も同ペースで輸入されていることから糸消費が大幅に落ち込んだことによるものと思われる。全体の86%を占める純綿糸の輸入を前月比でみると、国別では2位のインドネシアが先月、先々月落ち込んだこともあり 10.2%増となったものの、首位のパキスタンが 18.7%、3位のインド 19.4%、4位の中国も 29.6%とそれぞれ大きく減少となった。番手別も量的に少ない30番手中心が 15.3%増加となったが、20番手中心が 17.1%、40番手中心が 20.8%とそれぞれ減少している。糸種別では、カード糸、コマ糸とも 9.1%、15.8%それぞれ減少となった。
- 毛糸の輸入実績は前年同月比数量ベース 6.1%減と、7ヶ月連続の減少となった。品種別に見ると、紡毛糸の輸入が同 7.1%増と久々に増加したものの、太宗を占める梳毛糸が同 6.9%減少した。国別では、トップシェアの中国が同 6.3%増と2ヶ月続けて増加、次ぐマレーシアも 9.4%の増加となったが、イタリア、ペルー、タイからの輸入が大幅減となった。
- 人織糸の輸入実績は、トンベースで人織(長)糸が前月比 10.4%増となり3ヵ月連続プラスとなったものの、前年同月比は 4.9%減で3ヵ月連続のマイナスとなった。主要商品を前月に比較すると、主力商品の台湾などからのポリエステルは 1.1%の微減となったが、中国、米国などからのナイロンは中国からの輸入が 3.4倍に激増したこともあり 40%増となり、量的に少ないものの中国などからの人絹糸も 86.6%増とそれぞれ大幅増加となった。一方、人織(短)糸は主力商品の T/C, T/R でインドネシアからの輸入の多いポリエステル紡績糸は 22.9%増、マイヤー毛布用のアクリル紡績糸もインドネシア中心に 2.1倍の増加となったことで、全体では前月比 40.1%の2ヵ月ぶりのプラスとなったが、前年同月比は 19.9%減と15ヵ月連続してマイナスが続いている。

### 3. うち織物類

- ▶ 綿織物の輸入実績は、面積ベースで前月比 3.2%減となったものの、前年同月比は 8.7%増となった。国別で前月に比べると主要国で2位のインドネシアが 2.3%増、3位のパキスタンが 55.9%増となったが、全体の 77%を占める中国が 7.8%減少となったことにより全体を引き下げた。品目別にみると、主要商品のポプリンが 1.8%の微増、綾織が 4.3%増となったものの、金巾、粗・細布、朱子はそれぞれ減少となった。
- ▶ 毛織物の輸入実績は、数量(面積)ベース前年同月比 30.7%増と、前々月の 50.5%増、前月の 30.9%増に引き続き3ヶ月連続の大幅増となり 20ヶ月連続で増加となった。前月大幅減となったイタリアからの輸入が同 30.6%増となったのに加えて、中国からの輸入が同 27.2%増と3ヶ月続けて大幅増となった。品目別では、紡毛織物が前月の大幅減から同 3.1%増と増加に転じ、主力の梳毛織物も同 36.4%増と3ヶ月連続で大幅増となった。
- ▶ 人織織物の輸入実績は、面積ベースで人織(長)織物が前月比 2.2%の微増ながら3ヶ月連続の増加、前年同月比も 28.0%増と6ヶ月連続プラスとなった。品目別に前月に比較すると、量的に少ないナイロンが 20.3%減、ポリプロピレン等其の他にも 21.3%減となったものの、全体の 65%を占める主力商品のポリエステルが 22.0%増加した。国別では主要国の韓国が 8.4%、中国 3.8%、台湾が 49.9%それぞれ増加となったものの、インドネシア、ベトナムなど其の他が 22.7%の減少となった。一方、人織(短)織物は主力商品の T/C 織物が 17.1%、スフ織物も 28.0%、其の他織物も 82.7%と大幅増加となったことにより、全体では前月比 35.3%の大幅増、前同月比も 9.6%増となり 11ヶ月連続プラスとなった。

### 4. うち衣類

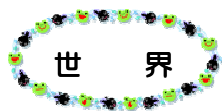
ニット製衣類が対前年同月比枚数で 0.8%増、布帛製衣類も同 1.4%増、身の廻り品も重量ベース 1.2%増となったが、ニット製下着が枚数ベースに比べ重量での減少幅が大きかったことから衣類計では重量ベース 0.3%減となった。ニット製衣類が2ヶ月ぶりに増加、布帛製衣類も2ヶ月ぶりに増加、身の廻り品は6ヶ月続けて増加し、衣類計は2ヶ月連続で減少した。

主要国別に見ると

- ▶ 中国は、対前年同月比枚数ベースでニット製衣類が 2.9%増加し 13ヶ月ぶりに減少した前月から再び増加、布帛製衣類も 1.1%増加し2ヶ月ぶりの増加、身の廻り品は重量ベース 3.2%増で6ヶ月連続の増加となった。今年1月から4月までの累計での衣類計(重量ベース)のシェアは 0.5ポイントアップし 90.5%となった(金額ベースでのシェアは 80.5%)。
- ▶ 韓国はニット製衣類が同 43.7%減少、布帛製衣類は 32.3%増となり、ニット製衣類が 13ヶ月連続の減少、布帛製衣類は4ヶ月ぶりに増加した。
- ▶ イタリアはニット製衣類が同 26.1%減と4ヶ月連続で減少、布帛製衣類も 15.2%減と5ヶ月連続で減少。

- ▶ ベトナムはニット製衣類が同 14.5%減と 2ヶ月ぶりに減少、布帛製衣類も 7.3%減と 6ヶ月ぶりの減少となった。
- ▶ 商品別には、ニット製衣類ではコート、スーツ、ジャケット、ズボン、ドレス、スカート、アウターシャツ、スポーツウェアなどが増加、セーターが減少。布帛製衣類では紳士用はアンサンブル、ジャケットが増加、コート、スーツ、下着類など減少、婦人用ではジャケット、ドレス、スカート、ズボンが増加、コート、スーツ、アンサンブル、下着類などが減少した。

前月は数量、金額ともに減少したが、今月は数量の 0.5%微増を含め、金額ともに落ち着いた増加となった。2005 年 1 月からのクォータ廃止に伴う欧米向け中国繊維製品の輸出急増により、米国では相次ぐセーフガード発動、欧州では中国との合意により輸入規制が行なわれる。中国国内では、欧米向けに当て込んでいた増産分がだぶつきかねないという不安から日本市場へ視線が戻ってきているようでもあり、今後は対日輸出圧力が高まる可能性も考えられる。



#### ◎ 米国、欧州の対中繊維セーフガード等を巡る現状（４）

クォータフリー後の繊維品貿易に関する、米国、欧州、中国のセーフガードを巡る進展、対応等については、その都度本誌に掲載しているが、その後の進展、新たな動きを取り纏めると次のとおり。

##### 1. 米 国

##### ○ カーテンに対するセーフガード申請を政府が却下。但し、業界は再申請

2005 年 6 月 8 日、米国繊維製造業者連盟（AMTAC）は、米国繊維協定遂行委員会（CITA）に対し、中国からの綿・化合繊維製カーテン（CA. 369/666）の輸入に対し、新たにセーフガードの申請を行った。同連盟によれば、2002 年から現在まで、当該商品の中国からの輸入は 500%増加しているとしているとしている。

CITA は、申請日より、15 労働日以内に、この要請を受理し、セーフガード調査を実施するかどうかを決定することとなっていたが、検討の結果、この申請を却下した。データ不足が理由で、CITA が対中繊維セーフガードを却下するのは、この 2 年来で初めてのことである。

但し、業界は、6 月 22 日に再申請を行っている。

## ○ 対中セーフガード発動品目の枠消化状況（2005年6月30日現在）

米国は現在、7品目について対中セーフガードを発動しているが、米国商務省の発表による、6月30日現在の消化状況は次のとおりで、規制枠の期限は2005年12月末であるが、品目によっては既に90%を超える品目もあり、7月中にも通関差し止めの品目が続出する可能性が高まっている。

<u>カテゴリー</u>	<u>品目詳細</u>	<u>枠消化率</u>
* 338/339 :	紳士・婦人用綿製シャツ、ブラウス（ニット）	90.3%
* 347/348 :	紳士・婦人用綿製ズボン	87.8%
* 352/652 :	綿・化合繊製下着	90.3%
* Cat. 340/640 :	紳士用綿・化合繊製シャツ（布帛）	35.6%
* Cat. 647/648 :	紳士・婦人用化合繊製ズボン	38.4%
* Cat. 638/639 :	紳士・婦人用化合繊製シャツ・ブラウス（ニット）	55.4%
* Cat. 301 :	綿糸（コームド）	6.6%

## ○ 米国連邦巡回控訴裁判所、「恐れ」に基づくセーフガード検討中止を正式に覆す

米国連邦巡回控訴裁判所は（CAFA）、6月28日、ペンディングとなっていた「恐れ」に基づく対中セーフガード申請・検討の中止命令について、最終的にこれを覆す決定を下した。

これは、昨年、米国国際通商裁判所（CIT）が繊維輸入業界、小売業界からの要求に基づき、「恐れ」に基づくセーフガード申請の検討を暫定的に中止するよう決定したことに対し、米政府がCAFAにその撤回を提訴していたもので、本年4月CAFAはCITの中止命令を暫定的に撤回するよう命令していたが、今回はこの命令を公式に確認したものの。

今回の決定は「恐れ」に基づく申請を正式に法的に有効と決定したものではないが、この決定により、今後業界及び政府は、実際に市場攪乱が起こっていないとしても、その「恐れ」に基づいてセーフガードを申請、検討することが認められることから、資料が整い次第、業界よりの「恐れ」に基づくセーフガード申請が増加する可能性が高まっている。

## 2. E U

### ○ EU・中国繊維交渉妥結、EUセーフガード撤回、中国輸出自主規制

EUの2品目（Ca. 4:Tシャツ、Ca. 117:亜麻糸）の対中セーフガード発動を受けて行われた中国とEUの協議において、中国及びEUは、中国が自主規制に応じ、EUは、セーフガードを撤回することで合意に達したと6月11日発表した。

合意の内容の概要は次のとおり。

- (1) EUは中国産繊維 10 品目（綿布、Tシャツ、セーター、ズボン、ブラウス、ベッドシーツ、女性用スーツ、ブラジャー、テーブルクロス、亜麻糸）のセーフガード調査を終了する。
- (2) 今年 6 月 11 日から 2007 年末まで、これら 10 品目の輸出伸び率を 10%～12.5%（一部の 2005 年の伸び率は 8%）に中国が抑えることに、双方は合意する。
- (3) 05 年～07 年の間、10 品目以外の中国産繊維品について、数量制限を抑制すること、及び 08 年には全ての数量制限を抑制することを EU は保障する。
- (4) 繊維品貿易で今後起こる問題については、協議により解決を図っていくことで双方が一致、同意する。

規制合意品目及び規制枠水準は次のとおり。

	Unit	Base for 2005 import levels	Agreed growth rate 2005	Imports 2005 (from 11 June)	Imports 2005 (total)	Agreed growth rate 2006	Imports 2006 (total)	Agreed growth rate 2007	Imports 2007 (total)
<b>5 – pullovers</b>	1000 units	4.04-03.05	8%	68,974	181,549	10%	199,704	10%	219,674
<b>6 – men’s trousers</b>	1000 units	4.04-03.05	8%	104,045	316,430	10%	348,072	10%	382,880
<b>7 – blouses</b>	1000 units	4.04-03.05	8%	24,761	73,176	10%	80,493	10%	88,543
<b>4 - T-shirts</b>	1000 units	3.04-02.05	10%	150,985	491,095	10%	540,204	10%	594,225
<b>26 – dresses</b>	1000 units	4.04-03.05	10%	7,959	24,547	10%	27,001	10%	29,701
<b>31 – brassieres</b>	1000 units	4.04-03.05	10%	96,086	205,174	10%	225,692	10%	248,261
<b>115 - flax yarn</b>	tons	3.04-02.05	10%	1,911	4,309	10%	4,740	10%	5,214
<b>2 - cotton fabrics</b>	tons	4.04-03.05	12.5%	26,217	55,065	12.5%	61,948	12.5%	69,692
<b>20 – bed linen</b>	tons	4.04-03.05	12.5%	6,451	14,040	12.5%	15,795	12.5%	17,770
<b>39 –table + kitchen linen</b>	tons	4.04-03.05	12.5%	5,521	10,977	12.5%	12,349	12.5%	13,892

(注) 当該 10 品目は、先に EU がセーフガード調査を開始していた 9 品目から女性用オーバーコート、靴下、亜麻織物が抜け、新たに女性用スーツ、テーブルリネン、ベッドリネンが加えられている。

規制品目の輸入実績（2005.1～3）と伸び率

Product category	Actual imports Jan -Mar 2005 (based on import data)	Percentage increase compared to Jan-Mar 2004
2 - cotton fabrics	14.048	60%
4 - T-shirts	150.665	164%
5 - pullovers	65.020	534%
6 - men' s trousers	104.195	413%
7 - blouses	21.927	186%
20 - bed linen	4.058	164%
26 - dresses	5.834	139%
31 - brassières	44.229	63%
39 - table+kitchen linen	2.859	61%
115 - flax or ramie yarn	1.098	51%

○ **EU、中国との繊維品協定覚書（MoU）に基づく運用細則を公表**

EU 委員会は、6 月 23 日、輸入業者への告示として、対中繊維品協定覚書に基づく輸入管理運用細則を公表した。7 月 3 日より発効する。

これによると、規制品目の輸入管理はダブルチェック・システムが導入され、中国当局によって発給された輸出許可書の提示に基づき、EU 当局は、輸入許可書を発給することとなる。

当該規則の骨子は次のとおり。

1. MoU の対象となっていない製品（数量制限が合意された 10 カテゴリー品目以外の繊維・衣料品）：現行のシステムは、（例えば、監視書類の発給に基づく輸入が義務付けられている場合は）、当該輸入監視制度が廃止されるまでは変更されない。
2. 規則が発効する前に輸入された製品は、現行のシステム（例えば監視制度）は変更されない。
3. 規則が発効してからは、MoU 対象製品は、（下記の（a）の例外を除く）、輸入許可（ライセンス）の提出を義務付けられる。当該ライセンスの発給は次の規則に基づく：
  - a) 2005 年 6 月 11 日以前に船積みされた製品：MoU 対象商品とはならず、いかなる規制も無く、輸入許可は自動的に発給される。但し、当該製品は、発給された監視書類の提出により、域内自由流通が認められる。
  - b) 6 月 11 日から規則の発効日の間に船積みされた製品：制限無しに自動的に発給される輸入ライセンス（許可）に基づく。但し、当該輸入は合意された 2005 年枠にカウントされる。

c) 規則発効後で、中国の輸出ライセンスシステムが稼動（7月20日）するまでの間に船積みされた製品：輸入は輸入ライセンス（許可）に基づき、合意された2005年枠にカウントされる。その間に合意された規制枠を超過する場合は、輸入ライセンスは無効となる。

（注：数量制限の申請のスタート時であり、このケースはあり得ないと思われる。）

d) 中国の輸出ライセンスシステムが稼動してから、船積みされた製品（7月20日以降）：輸入ライセンスは、有効な輸出ライセンスを提出し、余剰数量が確認された後、発給される。

### 3. 中国

#### ○ 中国、繊維品輸出暫定管理措置を発表

中国商務部（MOFCOM）は、2005年6月19日、繊維品の輸出管理強化を図るため「繊維品輸出臨時管理弁法（暫定）」を発表した。7月20日より発効する。

これは、現時点では、輸出自主規制を行うことで合意しているEU向け繊維品輸出が対象になるが、5月にセーフガードが発動された米国向けについては、商務部は「セーフガードが発動された7品目について、中国政府は現在米国政府と協議中である。従って、弁法で実施する輸出管理は適用されず協議の状況を見て決定する」としている。

新措置の骨子は次のとおり。

\* MOFCOMは、「繊維品輸出臨時管理弁法（暫定）」が適用される「繊維品輸出管理商品目録」を制定し、公告により公表する。当該リストには、次の品目が含まれる。

- (1) 他国から、中国に制限を課せられた繊維品
- (2) 二国間協定により暫定的に数量規制が課せられた繊維品

\* 暫定的輸出枠で許可される輸出量は、当該品の輸出価格に基づき、次の公式で算出される。

$$S=T \times [a1 \times (70\% \times Q1/M1 + 30\% \times Q2/M2) + a2 \times Q3/M3]$$

(注)

(1) Sは申請許可数量

(2) Tは中国の暫定的輸出枠の全数量

(3) Q1は、2005年1月1日以降、規制国向けに当該輸出業者の輸出した金額。Q2は2005年1月1日以降（Q1はゼロでない）、非規制国向けに当該輸出業者が輸出した全輸出金額。

Q3は、統計カバー時点内で、2005年1月1日以前に当該輸出業者が輸出した全輸出金額。

（統計カバー時点とは、輸出枠が実施された日以前の12ヶ月間）。

(4) M1は、2005年1月1日以降、規制国向けに全輸出業者の輸出した金額。M2は2005年1月1日以降（Q1はゼロでない）、非規制国向けに全輸出業者が輸出した全輸出金額。

M3 は、統計カバー時点内で、2005 年 1 月 1 日以前に全輸出業者が輸出した全輸出金額。  
(統計カバー時点とは、輸出枠が実施された日以前の 12 ヶ月間)。

(5) a1 は 2005 年 1 月 1 日以降の輸出ウエート、a2 は、2005 年 1 月 1 日以前の輸出ウエートで a1 は 0.7 で a2 は 0.3.

\* 規制期間が 1 年以上の品目については、MOFCOM は、2 年目からは、毎年全規制枠の 5% を新規業者に配分する。

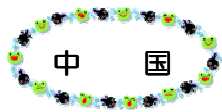
\* 暫定的輸出ライセンスは、「1 貨物 1 許可書」「1 通関 1 許可書」で発給され 1 暦年内で 6 ヶ月間有効。その後は無効。ライセンスは譲渡できず、販売できず、偽造、変更することは出来ない。

\* MOFCOM は、輸出業者の申請のために公表される品目のリスト及び数量を配分の原則で決定し、リスト公表後 30 日以内に書面又は電子フォーマットで商務省の地方局に通達する。  
当該情報は、MOFCOM のウェブサイトにも掲載される。輸出枠を配分された輸出業者は、MOFCOM により規定された品目、枠の範囲内で、商務省の地方局に申請できる。

## ○ 中国、「繊維品輸出管理商品目録」を公告

中国商務部は、7 月 5 日、上記「繊維品輸出臨時管理弁法（暫定）」に基づき、「繊維品輸出管理商品目録」を公告した。

同公告によると、今回の「弁法」に基づき管理される製品は、EU 向けに自主規制に合意した上述の 10 カテゴリー品目。配分総数量は商務部が別途公告する。



## ◎ 2005 年 1－5 月の繊維品貿易・輸出は大幅増、輸入は減少傾向が続く

### I. 輸 出

—20%増の 379 億 791 万ドル、5 月単月では 23%増—

中国の海関統計によると、2005 年 1－5 月の中国の繊維品輸出は、20%増の 379 億 791 万ドルと、大幅な増加となった。

単月の輸出状況を見ると、1 月は 29%増、2 月は 34%増と大幅に伸び、3 月は一旦 4%増と大きく減速したが、4 月は 16%増、5 月は 23%増と再び大幅な伸びとなっている。

米国の相次ぐセーフガード実施、また EU との繊維協定締結により、駆け込み輸出が今後増



2005年5月の中国の繊維品輸出入状況

単位:1000ドル

	輸 入				輸 出				
	2004年実績		2005年1月～5月		2004年実績		2005年1月～5月		前年比
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	
繊維品合計		23,001,764		8,551,068		37,907,906		120	
原料(綿)合計	TON	3,891,010	6,632,920	1,385,852	2,220,592	144,970	482,639	145	146
スフ綿	TON	172,961	476,381	73,464	214,923	8,252	14,337	327	286
合繊綿	TON	992,584	1,375,307	368,082	600,535	96,196	123,508	164	192
(ポリエステル)	TON	507,255	531,489	154,756	188,279	81,724	87,270	177	205
(アクリル)	TON	459,536	775,295	202,489	380,221	395	750	54	59
糸合計	TON	1,717,755	3,935,831	655,463	1,595,514	549,649	1,973,379	115	114
人絹糸	TON	29,258	83,019	11,817	34,501	27,280	97,431	107	106
スフ糸	TON	32,122	93,698	10,817	34,567	11,652	45,116	113	129
合繊長繊維糸	TON	714,316	1,544,504	235,910	600,933	139,868	338,593	170	178
(ナイロン)	TON	259,232	557,874	88,891	231,062	29,111	100,449	139	170
(ポリエステル)	TON	369,166	573,417	115,936	210,295	95,159	168,049	192	234
合繊短繊維糸	TON	172,837	416,877	66,936	163,795	132,961	378,957	100	110
綿糸	TON	714,472	1,531,898	310,963	659,598	432,231	573,720	106	97
織物合計	千LM	5,059,862	6,254,606	1,801,548	2,298,507	6,419,145	5,854,892	118	120
絹織物	千LM	40,805	115,424	15,478	43,282	108,819	261,092	128	136
人絹織物	千LM	86,658	110,117	34,506	47,129	16,809	14,580	69	77
スフ織物	千LM	78,366	125,482	24,082	41,857	366,698	255,684	116	110
合繊長繊維織物	千LM	2,241,724	2,066,586	775,154	769,129	2,385,709	1,846,817	115	118
(ナイロン)	千LM	797,863	612,423	274,805	238,871	92,332	52,192	87	109
(ポリエステル)	千LM	1,102,705	1,063,056	329,642	370,947	2,011,287	1,553,597	114	117
合繊短繊維織物	千LM	793,149	884,220	287,803	320,557	1,292,387	830,318	121	131
綿織物	千LM	1,612,068	2,174,494	602,855	855,029	2,099,500	2,252,316	119	116
毛織物	千LM	77,059	610,479	21,809	157,858	38,546	207,113	121	122
不織布	TON	113,385	408,535	54,287	189,271	60,239	130,611	152	152
タイヤコード織物	TON	22,211	79,860	7,833	30,361	30,988	105,394	164	208
コーテッド織物	TON	292,959	964,618	111,105	410,922	172,412	410,644	133	139
ニット生地	TON	463,329	1,813,034	178,210	730,119	335,947	1,295,535	104	110
ニット製衣料			641,839		185,275		9,773,531		114
布帛製衣料			792,205		274,832		12,400,441		120
その他			1,478,315		615,675		5,500,840		129

出所:中国海関統計

加すると予想されるところから、6月の輸出は更に高水準になると考えられる。

#### <品目別輸出状況>

品目別では、中国の繊維品輸出全体の58%を占める最大輸出品目の衣料品及び同付属品は18%増の221億7,397万ドルとなった。内容的には、ニット製の衣料品及び同付属品が14%増の97億7,357万ドル、また太宗の布帛製衣料品及び同付属品は20%増の124億44万ドルとなっている。

織物類の輸出も、数量で18%増の64億1,915万メートル、金額で20%増の58億5,489万ドルと好調を維持している。

内訳は、前年は苦戦した最大品目の綿織物が、数量で19%増の20億9,950万メートル、金額で16%増の22億5,232万ドルと好調に推移、一方ポリエステル長繊維織物は数量で14%増の20億1,129万メートル、金額で17%増の15億5,360万ドルと、依然2桁の伸びを維持しているが、EUのダンピング実施の影響もあり、4月以降は伸び悩んでいる。

その他の主要織物では、合繊短繊維織物が数量で21%増の12億9,239万メートル、金額で31%増の8億3,032万ドル、ニット生地が数量で4%増の33万5,947トン、金額で10%増の12億9,554万ドルとなっている。

糸関係の輸出は、特に合繊長繊維糸の増加により、数量で15%増の54万9,649トン、金額で14%増の19億7,338万ドルとなっている。

内訳では、最大品目の綿糸は、数量で6%増の19万6,501トン、金額で3%減の5億7,372万ドルと数量増の金額減。

合繊短繊維糸は数量で横ばいの13万2,961トン、金額で10%増の3億7,896万ドルとなっているが、合繊長繊維糸は数量で70%増の13万9,868トン、金額で78%増の3億3,859万ドルと数量、金額共に大幅な増加となっている。合繊長繊維糸のうち、太宗のポリエステル長繊維糸は数量で92%増の9万5,159トン、金額で134%増の1億6,805万ドルと著増しており、ナイロン糸も数量で39%増の2万9,111トン、金額で70%増の1億45万ドルと大幅な伸びとなった。

綿類の輸出は、綿花は激減しているが、羊毛及びポリエステル綿、スフ綿の激増により、数量で45%増の14万4,970トン、金額で46%増の4億6,264万ドルと大幅に増加している。

#### <国別輸出状況>

地域別では、東アジアがシェア44%(1%減)を占め、西アジアが6%(4%増)、ヨーロッパが22%(48%増)、北米が18%(81%増)、中米が2%(4%減)、南米が2%(35%増)、アフリカが5%(35%増)、大洋州が3%(17%増)の市場構成となっている。

国別では、1位日本(64億5,485万ドル:6%増)、続いてEU(62億4,007万ドル:52%増)、米国(58億5,931万ドル:85%増)、香港(53億1,133万ドル:13%減)、韓国(13億8,831万ドル:6%減)の順で、この5大市場で全体輸出の67%のシェアを占めているが、特に今年

に入り枠が撤廃された EU、米国向けが衣料品を中心に突出した伸びとなっている。

主要輸出品目別に国別輸出先を見ると、衣料品については、ニット製衣料品は、トップ市場は日本（23 億 8,732 万ドル：10%増）で、続いて EU（16 億 8,512 万ドル：65%増）、米国（14 億 9,914 万ドル：134%増）、香港（9 億 2,333 万ドル：41%減）、オーストラリア（3 億 7,137 万ドル：21%増）の順となっている。また、布帛製衣料品の輸出先は、1 位が日本（29 億 7,339 万ドル：1%増）、次いで米国（25 億 2,655 万ドル：95%増）、EU（24 億 1,860 万ドル：58%増）、香港（12 億 5,857 万ドル：20%減）、韓国（4 億 2,472 万ドル：15%減）の順となっている。

織物類については、綿織物の主要輸出先は、香港（4 億 4,822 万メートル：横ばい）、韓国（1 億 5,330 万メートル：35%増）、バングラデシュ（1 億 3,476 万メートル：15%増）、EU（1 億 2,961 万メートル：91%増）、ベニン（1 億 2,658 万メートル：139%増）となっている。

合繊短繊維織物は、第 1 位が香港（1 億 9,187 万メートル：3%増）で、以下韓国（1 億 864 万メートル：11%増）、ミャンマー（7,022 万メートル：109%増）、アラブ首長国（6,444 万メートル：3%増）の順となっている。

ポリエステル長繊維織物の主要輸出先は、アラブ首長国（2 億 5,098 万メートル：12%減）、EU（2 億 51 万メートル：17%減）、イラン（1 億 5,934 万メートル：15%増）、ブラジル（1 億 596 万メートル：31%増）、香港（8,735 万メートル：23%減）、パキスタン（8,696 万メートル：108%増）、米国（6,997 万メートル：31 倍増）の順となっている。EU の減少は、この 3 月中旬のダンピング関税賦課の影響と見られ、対照的に米国向けが激増、現在セーフガード調査対象品目となっている。

## II. 輸 入

—13%減と減少傾向が続く—

輸入は、昨年は、特に前半に、綿花の輸入が激増したこともあり、大きく伸びたが、今年はこの綿花が大きく減少に転じており、またその他原料、織物類等の輸入も国内の増産を背景に低調で、全体では前年同期比 13%減の 85 億 5,107 万ドルと 2 桁の減少となっている。

この結果、中国の 2005 年 1-5 月繊維品貿易収支の黒字幅は前年比 34%増の 293 億 5,684 万ドルとなり、中国の外貨獲得の中核産業となっている。このうち主要国との繊維品貿易をみると、日本とは 50 億 4,289 万ドル、香港とは 46 億 7,334 万ドル、米国とは 52 億 1,937 万ドル、EU とは 56 億 6,370 万ドルの各々の黒字となり、この 4 カ国で中国の繊維品貿易全体の黒字額の 70%を占めている。

### <品目別輸入状況>

輸入の品目別内訳では、まず綿関係では、綿花の米国からの輸入が激減していることもあり、数量で 34%減の 138 万 5,852 トン、金額で 37%減の 22 億 2,059 万ドルと大幅に減少した。

合繊綿の輸入も特に量的には低調で、数量で17%減の36万8,082トン、金額で4%増の6億54万ドルとなった。合繊綿の内訳は、アクリル綿が数量で2%減の20万2,489トン、金額で17%増の3億8,022万ドルと数量減の金額増、一方ポリエステル綿は数量で31%減の15万4,756トン、金額で16%減の1億8,828万ドルと大きく減少している。因みに、前年前半特に急増した綿花の輸入は、数量で51%減の61万5,868トン、金額で66%減の7億2,563万ドルと激減している。

糸類の輸入は、数量で12%減の65万5,463トン、金額で4%減の15億9,551万ドルと低調な推移となっている。品目別では、最大品目の綿糸は、数量で1%減の31万963トン、金額で3%減の6億5,960万ドルとなった。

合繊長繊維糸は、数量で23%減の23万5,910トン、金額で3%減の6億93万ドルで、この内訳は、大宗のポリエステル糸は数量で30%減の11万5,936トン、金額で14%減の2億1,030万ドル、一方ナイロン糸は、数量で18%減の8万8,891トン、金額で7%増の2億3,106万ドルとなっている。合繊短繊維糸は、数量で10%減の6万6,936トン、金額で8%減の1億6,380万ドルとなった。

織物類の輸入については、数量で7%減の18億155万メートル、金額で1%増の22億9,851万ドルと数量減の金額微増となっている。

品目別では、最大輸入品目の合繊長繊維織物は数量で14%減の7億5,515万メートル、金額で1%減の7億6,913万ドルとなった。内訳は、ポリエステル(長)織物が、数量で27%減の3億2,964万メートル、金額で4%減の3億7,095万ドル、ナイロン織物は、数量で15%減の2億7,481万メートル、金額で1%減の2億3,887万ドルとなった。

綿織物は数量で横ばいの6億286万メートル、金額で3%増の8億5,503万ドル、また合繊短繊維織物は数量で横ばいの2億8,780万メートル、金額で2%減の3億2,056万ドルとなった。

その他品目では、ニット生地が数量で1%減(17万8,210トン)、金額で4%増(7億3,012万ドル)、コーテッド織物は数量で12%減(11万1,105トン)、金額で6%増(4億1,092万ドル)と各々数量減の金額増となっている。

衣料品の輸入は、布帛製衣料品が1%減の2億7,483万ドル、ニット製衣料品は10%減の1億8,528万ドルとなった。

## <国別輸入状況>

国別輸入では、日本(14億1,196万ドル:横ばい)、台湾(13億4,925万ドル:6%減)、韓国(11億7,736万ドル:4%増)、米国(6億3,994万ドル:58%減)、香港(6億3,798万ドル:11%減)、EU(5億7,637万ドル:20%増)がベスト6で、加工用の原材料を中心に、これら6カ国からの輸入で全体の68%を占めている。因みに、州別構成では、東アジアからの輸入が全体の75%(1%減)を占め、北米が8%(57%減)、欧州が7%(20%増)、大洋州が5%(4%減)となっている。

主要輸入品目別に国別輸入先を見ると、合繊綿の輸入は、金額ベースでは、日本(1億4,484

万ドル：13%増）、韓国（1億2,312万ドル：1%増）、台湾（1億2,219万ドル：22%減）、タイ（5,010万ドル：43%増）の順で、この4カ国で全体の73%を占めている。また、数量ベースでは、台湾が38%減（9万596トン）、韓国が20%減（8万697トン）、日本が3%減（7万265トン）、タイが14%増（3万5,493トン）で、タイを除き何れも低調な推移となっている。

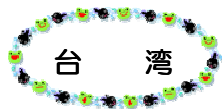
合繊長繊維糸の輸入は、金額ベースで、台湾（2億4,881万ドル：18%減）がトップで、続いて韓国（1億2,168万ドル：6%減）、日本（5,677万ドル：2%減）の順で、この3カ国で全体の71%を占めており、何れも減少推移となった。また数量ベースでも、台湾が31%減（13万2,791トン）、韓国が33%減（4万391トン）、日本が2%減（8,815トン）と各々減少している。

織物類の輸入は上記3国と香港の4カ国からの輸入が圧倒的なシェアを占めている。

合繊長繊維織物については、1位が台湾（3億5,460万メートル：23%減）、続いて韓国（1億7,936万メートル：11%増）、日本（8,901万メートル：1%減）、香港（5,459万メートル：23%減）の順で、この4カ国で全体の87%を占めている。

合繊短繊維織物の輸入も、台湾（1億487万メートル：13%増）、韓国（5,943万メートル：2%減）、日本（3,942万メートル：2%減）、香港（2,912万メートル：25%減）の順で、この4カ国で81%を占めている。

また、綿織物の輸入は、香港（1億6,406万メートル：2%増）、日本（6,896万メートル：6%減）、台湾（4,987万メートル：8%減）、パキスタン（4,564万メートル：9%増）、韓国（3,544万メートル：15%増）の順となっている。



### ◎ 2005年1-3月の繊維品貿易・輸出は減少推移、 輸入は増加推移

<輸出は4%減の27億1,304万ドルと減少推移>

台湾の通関統計によれば、2005年1-3月の台湾の繊維品輸出は4%減の27億1,304万ドルで、昨年は若干回復の道を辿ったが、今年は再び減少に転じている。

市場的には、全体の69%を占める東アジアは、中国向け直接輸出が7%増と伸び、他にベトナム、インドネシア、日本が好調に推移しているが、最大市場の香港は9%減と大きく後退し、全体として2%減となった。その他主要市場である欧米市場は、本年からクォータフリーの時代を迎えたが、シェア15%を占める北米は6%減、6%を占める欧州は5%減と、いずれも中国の攻勢に押されてか、減少推移となっている。



品目別輸出では、原料関係は、綿類が数量で16%減の19万4,826トン、金額で4%増の2億9,266万ドルと数量減の金額増、また糸類は数量で19%減の22万5,174トン、金額で横ばいの5億761万ドルと特に数量的な不振が目立っている。

綿類では、中心品目の合繊綿は、主力のポリエステル綿が数量で17%減の13万8,501トン、金額で2%増の1億7,840万ドル、一方、アクリル綿は数量で13%減の2万9,281トン、金額で9%増の5,355万ドルと揃って数量減の金額増となった。ポリエステル綿の主要市場は、EU、ベトナム、香港、中国、米国の順で、EU、ベトナムは数量、金額共に好調に推移したが、香港、中国、米国は特に数量面で大幅な減少となった。アクリル綿の主要市場は、中国、インドネシア、香港で、何れも数量減の金額増となった。

糸類の輸出は、数量で19%減の22万5,174トン、金額で横ばいの5億761万ドルとなった。最大品目の合繊長繊維糸は、数量で21%減の19万155トン、金額で1%増の4億2,037万ドルとなった。内訳は太宗のポリエステル糸が数量で25%減の12万8,475トン、金額で10%減の2億2,968万ドルと大幅に後退、またナイロン糸は、数量で12%減の5万2,125トン、但し単価のアップにより、金額は22%増の1億5,984万ドルとなった。ポリエステル糸の主要市場は、中国、ベトナム、香港、日本、EUの順で、数量的にはEUを除いて軒並み減少、金額的には、ベトナム、日本、EUは増加したが、その他は減少推移となった。ナイロン糸は、中国、香港が2大市場で数量ベースで全体の70%を占めるが、中国は数量、金額共に減少、一方香港は数量で微減となったが、金額では大幅な増加となった。

最大輸出品目の織物類の輸出は、金額で10%減の5億8,278万ドルと、不振推移となった。内訳は、中心品目のポリエステル（長）織物が数量で24%減の2億4,878万平方メートル（SM）、金額で9%減の1億7,240万ドル、ナイロン（長）織物は数量で35%減の1億5,219万SM、金額で13%減の9,430万ドルと、共に大きく後退している。

ポリエステル（長）織物の主要市場は、数量ベースで、香港、中国、ブラジル、アラブ首長国、メキシコがベスト5で、ブラジル、メキシコは増加したが、その他は大幅な減少推移となっている。

その他主要織物では、綿織物が数量で15%減の7,613万SM、金額で11%減の1億1,812万ドルと低調に推移、一方合繊短繊維織物は数量で13%増の8,373万SM、金額で8%増の6,560万ドルと好調に推移した。また、ニット生地は金額で2%減の3億9,232万ドル、コート織物が金額で6%減の2億8,080万ドルとなった。

衣料品の輸出は、布帛製衣料品が17%減の1億4,048万ドル、ニット衣料品は18%減の1億6,656万ドルといずれも2桁の減少となっている。

#### <輸入は5%増の6億7,343万ドルと増加推移>

繊維品の輸入は5%増の6億7,343万ドルと、輸出の減少とは対照的に増加基調で推移している。

地域別輸入では、全体の63%を占める東アジアからの輸入は、最大輸入先の香港、日本、中

国、韓国、ベトナム等主要国からの輸入が増加し7%増となった。また、シェア15%の欧州からの輸入は横ばい、シェア12%の北米からの輸入は主に綿花の輸入を中心に30%増と大幅な増加となった。

品目別輸入では、綿類は天然繊維原料を中心に数量で33%増の12万1,381トン、金額では9%増の1億6,424万ドルとなった。

但し、ポリエステル綿中心の合繊綿の輸入は数量で30%減の7,197トン、金額で11%減の1,732万ドルと大きく減少している。

糸類の輸入は、数量で12%減の3万6,574トン、金額では9%減の1億1,192万ドルと数量、金額共に低調な推移となった。内訳は、太宗の合繊長繊維糸は、数量で14%減の1万4,031トン、金額で4%減の5,739万ドルとなった。その他では、綿糸が数量で19%増の1万3,363トン、金額で3%減の3,303万ドルと数量増の金額減、合繊短繊維糸が数量で37%減の7,255トン、金額で28%減の1,574万ドルとなった。

織物類の輸入は、金額で6%減の4,640万ドルと減少推移となった。内訳は、綿織物が数量で24%増の2,970万SM、金額で15%増の2,109万ドルと大幅に増加、合繊短繊維織物は数量で15%増の4,986万SM、金額で32%減の867万ドルと数量増の金額減、ポリエステル(長)織物が数量で25%減の624万SM、金額で6%減の547万ドルと数量、金額共に低調な推移となった。

また、衣料品の輸入は、布帛製衣料品が13%増の1億4,203万ドル、ニット製衣料品が17%増の9,527万ドルと香港からの輸入を中心に2桁の増加となっている。



### ◎ 2005年1-3月の繊維品貿易・輸出は順調に推移、 輸入も高水準で推移

<輸出は7%増の15億6,162万ドルと順調に推移>

タイの通関統計によると、2005年1-3月のタイの繊維品輸出は、クォータフリー後、中国品の欧米での攻勢が強まる中で、前年比7%増の15億4,162万ドルと順調な推移となっている。

これを品目別に見ると、タイの最大輸出品目で全体の繊維品輸出の51%を占める衣料品は、ニット製衣料品が、最大市場の米国また続く大手市場のEU向けの増加により12%増の4億963万ドルと2桁の増加となっているが、布帛製衣料品は、欧米向けの伸び悩みにより1%減の3億7,521万ドルと微減推移となっている。



2005年1～3月のタイの繊維品輸出入状況

	輸 入				輸 出					
	2004年実績		2005年(1～3)		2004年実績		2005年(1～3)			
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額		
繊維品合計										
原料(綿)合計	TON	466,926	736,930	213,965	210,673	TON	1,057,592	457,679	91,054	116,202
スフ綿	TON	5,728	20,302	1,506	5,303	TON	34,770	53,920	9,121	15,121
合繊綿	TON	51,943	76,031	11,401	19,152	TON	960,006	351,866	68,992	90,907
(ポリエステル)	TON	25,776	31,284	6,204	8,820	TON	264,143	288,309	54,982	66,094
(アクリル)	TON	22,934	38,635	4,374	8,472	TON	695,438	62,389	13,923	24,453
糸合計	TON	88,768	390,552	23,978	95,674	TON	354,059	740,004	87,445	197,093
人絹糸	TON	1,562	8,265	590	2,394	TON	2,397	6,982	1,304	3,018
スフ糸	TON	417	1,305	23	99	TON	25,415	57,388	5,734	13,287
合繊長繊維糸	TON	62,779	222,486	17,937	68,438	TON	213,811	342,769	51,428	94,465
(ナイロン)	TON	30,711	108,427	8,525	34,561	TON	22,610	67,319	5,657	19,865
(ポリエステル)	TON	25,546	60,532	7,756	19,654	TON	160,276	231,759	39,893	63,470
合繊短繊維糸	TON	7,976	48,209	1,837	7,571	TON	62,140	143,385	14,300	35,151
綿糸	TON	12,009	64,467	3,155	12,448	TON	44,793	132,611	13,235	36,751
織物合計	TON	107,216	641,839	27,305	147,824	TON	159,955	870,389	36,989	210,477
絹織物	TON	98	5,653	27	1,125	TON	200	13,937	64	3,571
人絹織物	TON	1,176	10,751	382	2,918	TON	1,101	6,650	154	895
スフ織物	TON	19,081	53,972	6,379	16,477	TON	11,873	65,393	3,661	19,846
合繊長繊維織物	TON	30,362	173,332	6,147	35,123	TON	35,817	168,708	7,492	41,880
(ナイロン)	TON	4,897	37,956	945	7,509	TON	2,246	12,355	755	4,488
(ポリエステル)	TON	17,045	94,910	3,122	18,383	TON	21,104	97,611	3,660	21,665
合繊短繊維織物	TON	16,301	84,309	3,950	19,906	TON	51,663	269,874	11,352	61,678
綿織物	TON	37,090	260,596	9,921	62,873	TON	58,793	343,060	14,065	81,786
毛織物	TON	1,529	37,437	221	5,322	TON	101	1,309	18	214
不織布	TON	13,704	55,221	3,801	16,005	TON	27,977	73,498	7,074	19,915
タイヤコード織物	TON	18,404	55,810	5,274	18,470	TON	18,639	62,368	4,879	19,596
コート生地	TON	14,432	41,304	18,378	9,559	TON	12,669	41,900	3,363	11,095
ニット生地	TON	39,627	309,153	9,719	76,102	TON	27,787	143,830	5,416	28,716
ニット製衣料			88,001					1,813,051		409,625
布帛製衣料			84,809					1,590,724		375,207
その他			313,114					626,027		153,692
(注)2004年の合繊綿・合繊綿アクリルの数量は疑義があるが、タイ統計原本どおり。										

単位:1000ドル

出所:タイ通関統計

織物類は全般的に伸び悩んでおり、数量で9%減の21万477トン、金額で2%減の2億1,048万ドルとなった。内訳は、最大品目の綿織物が数量で4%減の1万4,065トン、金額で1%減の8,179万ドル、合繊短繊維織物が数量で11%減の1万1,352トン、金額で8%減の6,168万ドルと数量、金額共に低調な推移となった。

合繊長繊維織物は数量で15%減の7,492トン、金額で7%増の4,188万ドルと、数量減の金額増となった。このうち、昨年不振のナイロン織物は数量で46%増の755トン、金額で83%増の449万ドルと大きく盛り返しているが、逆に昨年好調であった太宗のポリエステル長繊維織物は数量で32%減の3,660トン、金額で6%減の2,167万ドルと大幅な減少に転じている。

一方、原料関係の輸出は全般的に一特に、金額的に一好調で、繊維品全体の輸出の伸びに貢献している。

まず、綿類は数量で8%減の9万1,054トン、金額で10%増の1億1,620万ドルと、数量減の金額増となった。中心品目の合繊綿は、ポリエステル綿が数量で17%減の5万4,982トン、金額で3%減の6,609万ドルと減少推移、一方、アクリル綿は数量で85%増の3,923トン、金額で116%増の2,445万ドルと大きく伸びている。

また、糸類の輸出は好調で、数量で7%増の8万7,445トン、金額で17%増の1億9,709万ドルと数量、金額共に大きな伸びとなった。

太宗の合繊長繊維糸は、数量で9%増の5万1,428トン、金額で33%増の9,447万ドルで、この内訳は、ナイロン糸が数量で5%減の5,657トン、金額で24%増の1,987万ドルと数量減の金額増になったのに対し、ポリエステル糸は数量で24%増の3万9,823トン、金額で45%増の6,347万ドルと数量、金額共に各々好調な推移となった。

その他糸類では、綿糸の輸出が数量で9%増の1万3,235トン、金額で横ばいの3,675万ドル、合繊短繊維糸は数量で5%減の1万4,300トン、金額で4%増の3,515万ドルとなっている。

市場別では、州別では、東アジア（シェア：34%）が8%増、北米（シェア：32%）が10%増、ヨーロッパ（シェア：21%）で4%増となっており、この3大市場で全体の88%を占め、全て増勢推移となっている。

国別では、米国、EU、日本、中国、香港、アラブ首長国が6大輸出市場で全繊維品輸出の67%を占めている。このうち、最大市場の米国が10%増の4億6,944万ドル、EUが2%増の2億9,579万ドル、中国が22%増の7,840万ドルと増加推移となっているが、日本は3%減の1億990万ドル、香港が6%減の4,479万ドル、アラブ首長国が17%減の3,956万ドルと減少推移となっている。

その他主要輸出国は、インドネシア（3,296万ドル：18%増）、マレーシア（2,529万ドル：11%増）、バングラデシュ（2,792万ドル：18%増）、ベトナム（2,785万ドル：45%増）、カナダ（2,629万ドル：13%増）、インド（2,495万ドル：15%増）で、何れも好調な推移となっている。

## <輸入も12%増の6億9,807万ドルと高水準で推移>

輸入も輸出の好調を背景に、12%増の6億9,807万ドルと、2桁の伸びを記録している。

綿類の輸入は、天然繊維原料の輸入を主体に数量で104%増の21万3,965トン、金額で17%増の2億1,067万ドル、また糸類の輸入は合繊長繊維糸主体に数量で11%増の2万3,978トン、金額で11%増の9,567万ドルと何れも高い伸び率を記録している。

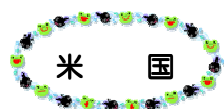
織物類の輸入は主要品目では、綿織物は高水準を記録したが、合繊長繊維織物が大きく減少し、全体として数量で4%増の2万7,305トン、金額で1%増の1億4,782万ドルと数量、金額共に微増推移となった。

また、衣料品の輸入は額的には少ないが、ニット製衣料品が6%減の1,459万ドルと減少しているのに対し、布帛製衣料品が26%増の2,557万ドルと大幅な伸びを記録している。

市場別では、州別では東アジアが63%と圧倒的なシェアを占め8%増となっている。

国別では、中国、米国、日本、台湾、EU、香港が6大輸入先で全繊維品輸入の71%を占めている。最大輸入先の中国からの輸入は18%増の1億4,373万ドル、続く米国が綿花の輸入が急増し79%増の1億433万ドル、日本が21%増の7,647万ドル、台湾は19%減の6,753万ドル、EUが19%増の6,379万ドル、香港が3%増の3,751万ドルと台湾を除いて軒並み増加推移となっている。

その他主要輸入先は、韓国(3,145万ドル:15%減)、インドネシア(2,575万ドル:6%増)等となっている。



## ◎ 2005年4月の繊維品輸入、中国が引続き大幅に増加

2005年4月の米繊維品輸入は4%増となり、2カ月連続して一桁増となり、集中豪雨的な輸入は沈静化の兆しを示している。しかしながら、中国からの輸入は37%増と引き続き大幅に増加している。

また、2005年1~4月の輸入は9%増と一桁台となったが、中国からの輸入は45%の著しい増加となっている。

### 【4月の輸入】

#### <2カ月連続の一桁の伸び>

2005年4月の米繊維品輸入は38億8,800万SME(平方メートル換算)で、前年同月に比べ4.4%増となり、前月の5.8%増に続き一桁増となった。

4月の輸入を品目別に見ると、ノン・アパレル(紡織品(=糸、織物)、その他繊維製品)

は 23 億 3,900 万 SME で 1.5%の低い伸び率となったが、2002 年 1 月から続いている毎月の前年同月比増の記録を 40 カ月に伸ばした。また、アパレル(衣料品)は 15 億 5,000 万 SME で 11.7%の大幅増となり、9 カ月連続の増加を記録した。

4 月の地域別輸入では、中国からの輸入は 12 億 3,700 万 SME で 37.2%増と、引き続き大幅な増加となり、米繊維品輸入をリードしている。中国からの輸入では、アパレルが 3 億 9,200 万 SME で 111.7%増と激増し、ノン・アパレルも 8 億 4,500 万 SME で 17.9%の大幅増となっている。アパレルの個別品目では、綿製ニットシャツ、ブラウスが 1,514%増、綿製ズボンが 1,321%増と驚異的に増加している。

その他では、バングラデシュが 27%、インドが 19%のそれぞれ増加となり、アジア地域からの輸入が増加している。

### 米 国 の 織 維 品 輸 入 推 移

単位：100万SME、%

	ノン・アパレル		アパレル		合 計	
	数 量	前年比	数 量	前年比	数 量	前年比
1995年	9,053	2.2	9,255	9.9	18,308	6.0
1996年	9,405	3.9	9,658	4.4	19,063	4.1
1997年	11,546	22.8	11,349	17.5	22,895	20.1
1998年	13,059	13.1	12,886	13.5	25,945	13.3
1999年	14,512	11.1	14,103	9.5	28,615	10.3
2000年	16,829	16.0	16,035	13.7	32,864	14.9
2001年	16,704	▲0.7	16,104	0.4	32,810	▲0.2
2002年	21,028	25.9	17,256	7.2	38,285	16.7
2003年	23,362	11.1	18,864	9.3	42,226	10.3
2004年	26,976	15.5	19,652	4.2	46,628	10.4
1 月	2,135	14.6	1,517	▲3.2	3,651	6.5
2 月	1,882	14.8	1,440	▲3.4	3,323	6.2
3 月	2,231	25.7	1,615	7.7	3,846	17.5
4 月	2,305	15.1	1,388	▲3.3	3,693	7.4
5 月	2,350	18.9	1,342	▲5.1	3,691	8.9
6 月	2,524	28.8	1,728	10.4	4,252	20.6
7 月	2,350	10.4	1,855	▲2.3	4,205	4.6
8 月	2,396	20.9	1,907	8.3	4,303	15.0
9 月	2,223	10.0	1,954	9.3	4,178	9.7
10 月	2,264	6.0	1,803	5.4	4,065	5.7
11 月	2,202	17.7	1,597	24.6	3,800	19.3
12 月	2,115	5.6	1,506	3.9	3,621	4.9
2005年	9,134	6.8	6,683	11.6	15,817	8.8
1 月	2,247	5.0	1,646	8.5	3,892	6.4
2 月	2,208	17.3	1,759	22.2	3,968	19.4
3 月	2,340	4.9	1,728	7.0	4,069	5.8
4 月	2,339	1.5	1,550	11.7	3,888	4.4

注：前年比は増減、▲は減少を示す（以下の表同じ）。出所：米商務省（DOC）

## 【1～4月の輸入】

2005年1～4月の米繊維品輸入は158億1,700万SMEで、前年同期比8.8%増となった。この1～4月の輸入を品目別に見ると、ノン・アパレルは91億3,400万SMEで6.8%増、また、アパレルは66億9,300万SMEで11.6%増となった。

1～4月の米繊維品輸入を地域別に見ると、アジア地域では、中国を中心とするビッグ4（中国、香港、台湾、韓国）からの輸入が突出しており、他方アセアンは停滞している。また、米近隣地域では、NAFTA（北米自由貿易協定）パートナー（メキシコとカナダ）からの輸入が低調であり、一方カリブ海諸国（CBI）は順調に推移している。

### <中国からの輸入、45%増>

東アジア地域のうち、いわゆるビッグ4からの輸入は27.2%の大幅増となった。この中では、中国からの輸入が45.0%増と急増し、本年1月からの規制廃止の恩典を最大限に享受している。全体の輸入に占める中国の割合は前年同期の22%から30%に拡大し、中国は引き続き供給国第1位の地位を保持している。

中国からの輸入では、特にアパレルが米輸入クォータ廃止により105%の大幅増となっている。そのほかの品目も、糸が115%増、織物が74%増、その他繊維製品が21%増といずれも大きく増加している。

他方、他のビッグ4構成国の韓国、台湾、香港はいずれも中国の大躍進の煽りを受けて大きく減少している。ビッグ4の中で中国に続く大手供給国である韓国からの輸入は主力の織物の不振で11.0%減、香港は太宗品目の衣料品が低調で24.7%減、台湾は衣料品と織物が低迷し16.8%減となった。

### <アセアン、停滞>

1～4月のアセアンからの輸入は1.6%減と停滞している。

アセアンの中では、ベトナムとカンボジアの新興市場はいずれも主力の衣料品が好調でそれぞれ9.8%増、11.0%増の大幅な増加となった。

しかし、タイ、インドネシア、フィリピンの伝統市場は停滞しており、タイは糸と織物、インドネシアは糸とその他繊維製品、フィリピンは衣料品の減少が影響して、それぞれ0.1%減、2.0%減、16.1%減と落ち込んでいる。

### <NAFTA、低調>

NAFTAパートナーのメキシコとカナダからの輸入では、メキシコは糸とアパレルの不振で5.7%減、またカナダは織物とその他繊維製品の不振で5.5%減となり、この結果、メキシコとカナダの両国合わせたNAFTAパートナーからの輸入は5.6%減となった。

それでも、メキシコとカナダは、それぞれ供給国第2位と第3位の地位を保持している。

<CBI、順調>

CBIからの1～4月の輸入は6.2%増と順調に推移している。CBIの中では、最大手のホンジュラスが9.3%増、エルサルバドルが5.7%増、ドミニカ共和国が4.0%増となった。

CBIからの輸入は、アパレルが96%と殆どを占めている。

米国の繊維品輸入推移（主要地域・国別）

単位：100万SME、%

	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年 1～4月	前年 同期比
全世界	32,864	32,812	38,288	42,225	46,628	15,817	8.8
NAFTA	7,951	7,558	7,722	7,238	7,351	2,327	▲5.6
メキシコ	4,747	4,290	4,335	3,926	4,087	1,272	▲5.7
カナダ	3,204	3,268	3,387	3,312	3,264	1,055	▲5.5
CBI	3,788	3,704	3,830	4,046	3,919	1,339	6.2
ホンジュラス	1,046	1,032	1,099	1,165	1,108	385	9.3
エルサルバドル	757	768	817	895	824	291	5.7
ドミニカ共和国	859	773	743	758	746	236	4.0
ビッグ4	5,886	5,911	9,348	12,632	16,126	5,862	27.2
中国	2,218	2,211	4,963	8,287	11,664	4,710	45.0
韓国	1,312	1,383	2,032	2,097	2,301	639	▲11.0
台湾	1,233	1,224	1,391	1,356	1,299	326	▲16.8
香港	1,123	1,092	962	892	862	187	▲24.7
アセアン	4,228	4,390	4,766	4,980	5,135	1,582	▲1.6
タイ	1,317	1,308	1,316	1,098	1,111	335	▲0.1
インドネシア	1,053	1,165	1,215	1,151	1,274	435	▲2.0
フィリピン	929	916	817	794	711	199	▲16.1
ベトナム	35	33	358	827	905	275	9.8
カンボジア	265	389	474	561	673	210	11.0
EU（15カ国）	1,863	1,868	2,055	2,058	2,059	682	▲2.2
イタリー	562	521	518	533	462	147	▲7.7
ドイツ	359	457	551	484	476	161	5.1
その他	9,148	9,381	10,567	11,272	12,038	4,025	3.1
パキスタン	1,997	2,189	2,537	2,690	2,966	1,005	5.6
インド	1,248	1,250	1,545	1,666	1,914	780	22.6
バングラデシュ	1,131	1,169	1,150	1,110	1,103	432	18.4
トルコ	867	871	1,068	1,026	981	300	▲6.2

<EU、斑模様>

EU（15カ国）からの1～4月の輸入は、全体では2.2%の減少となったが、構成国によって明暗が分かれている。

EUの主力国であるドイツは、糸とその他繊維製品が好調で5.1%増となったが、イタリー

は織物の不振が影響して 7.7%の大幅減となった。

#### <その他地域では、東アジア諸国が大幅増>

上記の主要地域以外に含まれない「その他地域」でも、パキスタン、インド、バングラデシュといった東アジア諸国からの輸入が活発に推移している。

中国、メキシコ、カナダに次いで供給国第 4 位の座を占めているパキスタンからの輸入は、好調な糸、衣料品、その他繊維製品に支えられて 5.6%増となった。

インドは、主力の衣料品とその他繊維製品の大幅増を反映して 22.6%増と大きく伸びた。また、バングラデシュも衣料品を主体に 18.4%増と順調に伸びている。

#### ◎ 2005 年 5 月の米大手小売店販売、寒い天候にも拘らず堅調

—70 社で 2.9%増—

米大手小売店の 2005 年 5 月の販売は、季節はずれの寒い天候にも拘らず、堅調に推移した。米国の国際ショッピング・センター協会（ICSC）が纏めた「米チエーン・ストア販売動向レポート」によると、米大手小売店（70 社）の 2005 年 5 月の売上高は前年同月比（既存店比、以下同じ）2.9%増となった。

米大手小売店の売上高の伸び率推移

単位：%

	1999 年	2000 年	2001 年	2002 年	2003 年	2004 年	2005 年
1 月	8.2	5.7	4.8	5.2	1.8	5.9	3.6
2 月	7.6	6.0	3.1	6.2	0.9	6.8	4.9
3 月	9.9	2.1	1.7	6.4	-0.2	6.8	4.1
4 月	4.2	7.9	3.8	1.6	3.1	3.7	2.2
5 月	6.8	5.0	1.5	3.4	2.0	5.4	2.9
6 月	7.4	3.7	2.8	5.1	2.4	2.6	
7 月	6.9	4.4	3.4	2.6	4.2	3.3	
8 月	6.7	4.2	3.6	1.6	4.9	1.3	
9 月	6.7	4.3	0.9	1.5	5.8	2.4	
10 月	5.7	3.8	2.3	3.1	2.4	4.1	
11 月	4.1	4.0	2.1	0.0	3.3	1.7	
12 月	6.7	0.7	2.2	1.0	3.9	2.7	
年間平均	6.7	4.0	2.6	3.1	2.9	3.9	

注：伸び率は前年同月比（既存店比）の増減を示す。（以下の表、同じ）

エコノミストは、「5 月の小売販売は、季節外れの寒い天候と降雨で月間平均気温が 22 年ぶりの低温を記録したことから、春夏物衣料が苦戦したものの、高級品店、ティーンズ向け衣料品店、紳士用衣料品店が引続き健闘したことから、全体として予想以上に堅調な伸びを示した」と分析している。

ストア・タイプ別販売では、衣料品専門店チェーンが0.1%の微減となったが、ディスカウント・ストアは2.7%増、百貨店は1.3%増と堅調であった。その他のストアでは、ドラッグ・ストアが7.6%増、フットウエア・ストアが4.6%増、ホールセール・クラブが3.3%増と順調に推移した。

衣料品を中心に、タイプ別に大手小売店の販売状況を見ると、以下の通り。

#### <百貨店>

大手百貨店の2005年5月の販売は、全体として堅調に推移したが、特に高級百貨店が好調であった。なお、ディスカウント・ストアのKマートと合併したシアーズ・ローバックの売上高は未発表である。

高級百貨店では、富裕層の顧客の引続く旺盛な購買意欲を反映して、ニーマン・マーカスが11.0%増、ノードストロムが7.4%増と何れも好調に推移した。但し、サクスは1.2%の微減となった。

このうち、ニーマン・マーカスは、部門別では、ニーマン・マーカスやバードルフ・グッドマンで構成される専門小売店部門は10%増、ダイレクト・メール部門は14%増となった。このうち、専門小売店部門は、地域別では南東部、西部、北東部、商品別では女性用コンテンポラリー・スポーツウエア、高級アパレル、デザイナー・ハンドバッグ、アクセサリー、男性用衣料品が好調な売行きを示した。また、ダイレクト・メール部門では、女性用のアパレル、シューズ、ハンドバッグ、アクセサリーがトップセール品目に入った。

サクスの5月の販売は全体で微減となったが、商品では、アウターウエア、ジュニア用アパレル、インティメート・アパレル、女性用と男性用のコンテンポラリー・スポーツウエア、女性用のデザイナー・アパレル、アクセサリー、シューズが好調であった。

中級百貨店では、メイが2.9%減となったが、J. C. ペニーは3.5%増、ディラードは1.0%増、フェデレーテッドは0.8%増、コールズは0.2%増と、いずれも僅かながらも前年を上回った。

このうち、ディラードは、地域別販売では西部が全体の平均伸び率を著しく上回り、東部も上回ったが、中部は下回った。また、商品別別では、ランジェリー、アクセサリー、シューズが全体の平均伸び率を著しく上回ったが、家具は著しく下回った。

また、フェデレーテッド首脳は、「5月の販売は、季節外れに寒かった地域における水着等の夏物衣料品やサンダルの予想外の不調が響いた」と説明している。

#### <衣料品専門店チェーン>

大手衣料品専門店チェーンの2005年5月の販売は、多くの小売店が3カ月連続の寒い天候で夏物衣料が苦戦を強いられたが、ティーンズ向け衣料品店チェーンなどのように好調に売上げを伸ばした小売店もあり、全体として斑模様であった。

若者向け衣料品専門店チェーンの5月の販売は明暗が分かれた。特に、ティーンズ向けチェーンのアバクロンビー&フィッチとアメリカン・イーグルはそれぞれ29.0%増、17.1%増と



好調であった。これらの小売店は、デニムの好調な販売に支えられた。

他方、同じ若者向け衣料品専門店チェーンでも、ギャップは 8.0%減、リミテッド・ブランドは 1.0%減、エアロポステールは 4.9%減となった。

このうち、若者向け衣料品専門店チェーン最大手のギャップの首脳は、「5月の販売は、一般的に失望するもので、商品マージンも昨年を大幅に下回った」と述べている。部門別販売では、ギャップ北米が前年同月の 10%増から 9%減、バナナ・リパブリック北米が同 8%増から 7%減、オールド・ネイビー北米が同 4%増から 8%減へと落ち込み、インターナショナル部門は同 3%減から 2%減へと水面下に沈んだままであった。

また、衣料品専門店チェーン第 2 位の地位にあるリミテッド・ブランドの部門別販売では、女性用ファッション衣料品専門店のリミテッド・ストアは 5%増となったが、男女既製服及びカジュアルウエア専門店のエクスプレスは 9%減となり、女性下着専門店のビクトリアズ・シークレットは横ばいにとどまり、衣料品部門合計で 5%減となった。なお、バス用品専門店のバス・アンド・ボディー・ワークスは 5%増となった。

キャリアウーマン向け主体の衣料品専門店チェーンでは、タルボットが 4.1%増と順調に推移したが、アン・テラー・ストアは 7.1%の大幅減となり、この分野でも明暗が分かれた。

このうち、アン・テラー・ストアは、部門別では、アン・テラー・ロフト（手頃価格衣料品店）部門が 9%減、アン・テラー（高級衣料品店）部門が 6%減と共に減少となった。同社首脳は「5月の商況は厳しく、3カ月連続の季節外れの寒さと湿った天候が販売に悪影響を与えた」と説明している。

その他、男性用ビジネス・アパレル専門店のメンズ・ウエアハウスは 12.8%の大幅増となった。

また、女性用ラージ・サイズ衣料品専門店大手のチャーミング・ショppsは 2.0%減となった。同社も、「特にミッド・アトランティックと北東部における季節外れの寒さが、販売に影響した」と述べている。

### <ディスカウント・ストア>

大手ディスカウント・ストアの 2005 年 5 月の販売は、ターゲットが 5.1%増、ウォル・マート（国際部門を除く）が 2.5%増と、何れも堅調であった。

このうち、米国のみならず、世界最大の小売企業であるウォル・マートは、「5月の販売は、地域別では南東部及び西部が好調であり、商品別では食料品が雑貨類を上回った」と説明している。同社の部門別販売は、スーパーセンターのウォル・マート部門が 2.7%、ホールセール・クラブのサムズ・クラブ部門が 1.6%のそれぞれ増加となった。

### <オフプライス・ストア>

アパレルやホーム・ファッションのブランド商品等をディスカウント・プライスで販売するオフプライス・ストアの 2005 年 5 月の販売では、ロス・ストアズが 7.0%増と大きく伸びたが、TJX は 1.0%の微減となった。

このうち、ロス・ストアズは、「5月の販売は、ジュニア用品、アクセサリ、シューズの引続く好調な販売により、予想通りの実績をあげた」と述べている。

米主要小売店の2005年5月の販売状況

単位：100万ドル、%

小売店名	売上高	
		前年同月比
<b>&lt;百貨店&gt;</b>		
ディラード	518	1.0
フェデレーテッド	1,191	0.8
J.C.ペニー	1,097	3.5
コールズ	899	0.2
メイ	1,119	-2.9
ニーマン・マーカス	267	11.0
ノードストロム	545	7.4
サクス	420	-1.2
<b>&lt;衣料品専門店チェーン&gt;</b>		
アバクロンビー&フィッチ	159	29.0
アメリカン・イーグル	140	17.1
アン・テーラー・ストア	177	-7.1
エアロポステール	62	-4.9
チャーミング・ショップズ	205	-2.0
ギャップ	1,170	-8.0
リミテッド・ブランド	673	-1.0
メンズ・ウエアハウス	128	12.8
パシフィック・サンウエア	80	0.4
タルボット	147	4.1
<b>&lt;ディスカウント・ストア&gt;</b>		
ターゲット	3,500	5.1
ウォル・マート)	18,800	2.5
<b>&lt;オフプライス・ストア&gt;</b>		
ロス・ストアズ	370	7.0
TJX	1,200	-1.0



## ◎ EU の新一般特惠関税制度の概要

EU は、2005 年 6 月 30 日付け官報において、2006 年 1 月 1 日から 2008 年 12 月 31 日まで（一部 2005 年 7 月 1 日から：下記の 3. ④対象国）適用される新一般特惠関税制度（GSP）を発表した。（理事会規則 NO. 980/2005：2005 年 6 月 27 日）

当該新制度の概要は次のとおり。

1. 受益対象国：180 カ国（付表 I 記載）
2. 受益対象品目：付表 II 記載
3. 税率の引き下げ：
  - ① 対象品目は、ノン・センシティブ品目及びセンシティブ品目に分類され、
    - i：ノン・センシティブ品目は無税
    - ii：センシティブ品目（繊維品が含まれる）は、原則当該従価税率の 3.5%ポイントの引き下げ。（例えば 5%の税率であれば 1.5%の税率となる。）  
但し、繊維品（HS11 部）は、例外的に当該従価税率の 20%引き下げ。（例えば 5%の税率であれば 4%の税率となる。）
  - ② 引き下げ例外品目：対象国であっても、当該品目の競争力が十分であると認められる品目は対象品目より除外される。  
繊維品の場合、中国は対象国であるが、紡織・衣料品（HS11 部全て）が対象品目より除外されている。また、インドの場合は、紡織品（HS11 部の一部）が対象品目より除外されている。
  - ③ 最貧国対象国（50 カ国）：全て原則無税
  - ④ 特定優遇対象国（人権、労働条件等で一定の基準を満たした国でスリランカを含む 14 カ国）：全て原則無税

## 組合関係の会議と催事

### 【2005年6月】

#### 輸出入

I. 「外国為替の基本」講習会を開催。

#### 輸出

I. 平成17年度第2回企画委員会を開催。

II. 「組合運営に関するタスクフォース」(平成17年度第1回、第2回)を開催。

III. 第19回繊維品輸出荷主連合会(TSA)通常総会を開催。

#### 輸入

I. アパレル委員会と絹委員会がそれぞれ海外調査ミッションを派遣。

II. 寝具インテリア委員会が「インテリア・ライフスタイル展」に出展。

III. 「貿易実務の基礎研修会」を東京・名古屋・大阪地区で開催。

### 2日(木)

**輸入** (大阪) 「第77回中国アジア専門委員会」(細田委員長)が開催され、陪席の丸紅(株)・西田前副理事長より講話のあった後、本年度の委員会ミッション派遣等について検討が行われた。

### 3日(金)

**輸入** (東京) 大谷ジェトロ認定貿易アドバイザーを講師に迎えて、輸入組合主催の「貿易実務の基礎研修会」がTFTビルで開催され、組合員137名が受講された。

### 7日(火)

**輸入** (大阪) 「第20回綿委員会」(大塚委員長)が開催され、綿製品懇談会用輸入見通しが策定された。

### 8日(水)

**輸入** (東京) 「第86回寝具インテリア委員会」(吉田委員長)が開催され、①「インテリア・ライフスタイル展」の運営スケジュールと注意事項等について打合せが行われた。尚、8日(水)から10日(金)まで東京ビッグサイト西1ホールにて開催された「インテリアライフスタイル展」へ寝具インテリア委員会が出展参加した。

(名古屋) 大谷ジェトロ認定貿易アドバイザーを講師に迎えて、輸入組合主催の「貿易実務の基礎研修会」が開催され、組合員38名が受講された。

### 9日(木)

**輸入** (東京) 「第65回アパレル委員会」(尾川委員長)が開催され、①正副委員長互選②本年度海外調査ミッションについて検討の後、情報交換が行われた。委員会終了後、ミッション参加者による打合せが行われた。

(大阪) 大谷ジェトロ認定貿易アドバイザーを講師に迎えて、輸入組合及びテキスタイル倶楽部共催で「貿易実務の基礎研修会」が開催され、組合員175名が受講された。

(名古屋) 黄麻製品輸入協議会メンバーは愛知万博の「バングラディッシュ館」を訪問し、展示黄麻製品を視察すると共に、同国関係者と懇談した。

15(水)

**輸出** (大阪) 平成 17 年度第 2 回企画委員会が輸出繊維会館会議室で開催され、平成 17 年度委員長に吉澤潤三氏(丸紅株式会社)が互選され、当委員会の下部機関である「組合運営に関するタスクフォース」(第 5 次)の継続設置が承認され、事務局より最近の繊維品輸出状況及びクォータ・フリー後の繊維品貿易に関する米国、欧州、中国の対応等の現状について報告を行った。

17(木)

**輸出** (大阪) 繊維品輸出荷主連合会(TSA)監事会が輸出組合会議室で開催され、谷本、柳澤両幹事による平成 16 年度決算書類の監査が行われた。

18日(土)～26日(日)

**輸入** (中欧)「アパレル委員会海外調査ミッション」(オーストリア・ハンガリー・ブルガリア)(尾川団長)を派遣。

23日(木)

**輸出入** (大阪) 輸出入組合、テキスタイル倶楽部の共催で「外国為替の基本」講習会を輸出繊維会館ホールで開催し、講師の(株)東京リサーチインターナショナル大阪貿易投資相談所の平尾次長より講演があり、組合員 133 名が受講した。

**輸出** (大阪) 平成 17 年度第 1 回「組合運営に関するタスクフォース」が輸出組合会議室で開催され、平成 17 年度議長に西田良司氏(丸紅株式会社)が互選され、海外市場調査団の派遣、内外繊維情報の広報について検討が行われた。

**輸入** (大阪) JICA 貿易促進コースの海外研修生 12 名が来所、事務局より種々説明を行った。

23日(木)～28日(火)

**輸入** (中国) 輸入組合「2005 年度絹委員会訪中ミッション」(川村委員長)が派遣された。

27日(月)

**輸入** (東京)「第 2 回繊維製品の原産国表示に係わる研究会」が繊維会館で開催された。

28(火)

**輸出** (大阪) 第 19 回繊維品輸出荷主連合会(TSA; 内海会長)通常総会が輸出組合会議室で開催され、①平成 16 年度事業報告書及び決算書、②平成 16 年度剰余金処分、③平成 17 年度事業計画、④平成 17 年度収支予算、⑤平成 17 年度の TSA の会費徴収留保、⑥平成 17 年度役員各案について審議の結果、何れも承認を得た。

29日(水)

**輸入** (東京) アパレル産業協会と輸入組合との「第 3 回原産地表示に関する WG 合同検討会」が開催された。

30日(木)

**輸出** (大阪) 平成 17 年度第 2 回「組合運営に関するタスクフォース」(西田議長)が輸出組合会議室で開催され、ロシア繊維市場調査団の派遣、内外繊維情報の広報、東アジア共同体研究会の設置について検討が行われた。

**7月のスケジュール（7月1日現在）**

5日（火）	輸入	（東京）	「繊維の基礎知識研修会」（於：TFT 研修室）
6日（水）	輸入	（東京）	「繊維の基礎知識研修会」（           "           ）
8日（金）	輸出	（大阪）	日本荷主協会関西委員会（於：輸出組合会議室）
13日（水）	輸入	（東京）	タイとの FTA 交渉に関する打合せ
22日（金）	輸入	（大阪）	第13回化合繊委員会
	輸入	（小松）	第78回中国アジア専門委員会
28日（木）	輸入	（東京）	繊維製品の原産国表示に係わる研究会
29日（金）	輸入	（福島）	第9回環境リサイクル対策 G

## ◎ 輸出組合「平成 17 年度組合運営に関するタスクフォース（第 5 次）」を設置

輸出組合は、平成 17 年度も企画委員会の下部機関である「組合運営に関するタスクフォース」を継続・設置することを決定した。これに伴い、平成 17 年度（第 5 次）タスクフォースは新年度議長を互選すると共に、ロシア市場調査団の派遣、e メールによる内外繊維情報の広報、東アジア共同体研究会の設置について検討を行った。

### 1. 平成 17 年度（第 5 次）タスクフォースの継続・設置と検討課題

本年 6 月 15 日開催の平成 17 年度第 2 回企画委員会において、平成 17 年度も企画委員会の下部機関である「組合運営に関するタスクフォース」（第 5 次）を継続・設置することが決定された。

また、同企画委員会において、この第 5 次タスクフォースの検討課題として、海外繊維情報の調査・広報活動を中心とした具体的な取組み、さらにその他の組合運営に関する事項について検討を行うようにとの指示が出された。

### 2. 構成メンバーと議長互選

平成 17 年度（第 5 次）タスクフォースの構成メンバーは、前年度と同じく 8 名となっている。（下記の委員名簿、参照）

また、平成 17 年度タスクフォースの議長については、第 1 回タスクフォース（6 月 23 日開催）において、輸出入組合の理事長及び企画委員長会社である丸紅株式会社の西田良司委員が互選された。

### 3. ロシア市場調査団の派遣

タスクフォースは、平成 17 年度（第 5 次）の検討課題の海外繊維情報の調査・広報活動の具体的な取組みについて検討の結果、わが国の繊維輸出振興のために新たな市場を開拓・確保する観点から、BRICs の一員として経済成長が著しいロシアに繊維市場調査団を派遣すること、同調査団員は企画委員会、欧州市場委員会及びタスクフォースの各委員会より募集することで意見が一致し、事務局で応募手続きに入った。

### 4. e メールによる内外繊維情報の広報

当組合の内外繊維情報の広報については、本年 4 月より、当組合及び輸入組合の統合機関誌「テキスタイルトレード」を両組合の HP（ホームページ）にそれぞれ掲載しているが、組合員へのサービス向上の観点から、HP による広報に加え、欧米の対中繊維セーフガード問題を

巡る最近の動向等の最新情報を適宜 e メールにて広報することについて、タスクフォースで検討の結果、アンケート調査を行って希望される組合員（担当者）に対して e メールによる広報を行うことで意見が一致し、事務局にてその手続きを進めることになった。

## 5. 東アジア共同体研究会の設置

東アジア共通の経済圏設立を目指す東アジア共同体構想が今後のアジアにおける大きなテーマとして関心を呼んでいるが、タスクフォースにおいて本問題への取組みについて検討の結果、商社の立場から見た東アジア共同体のあり方などを研究し、また経済産業省の当局者等を招聘して学習するために、タスクフォース委員による「東アジア共同体研究会」を設置することで意見が一致した。

なお、「東アジア共同体研究会」は月 1 回程度開催し、この第 5 次タスクフォースの任期が終わる 2006 年 3 月頃には報告書を纏める予定としている。

### 平成 17 年度（第 5 次）組合運営に関するタスクフォースの委員名簿

日本繊維輸出組合

	氏 名	会 社 名	役 職
議 長	西田 良司	丸 紅(株)	繊維総括部・大阪総務企画課課長
委 員	笠松 幸一	伊藤忠商事(株)	繊維カンパニー・繊維経営企画部部長代行
〃	尾坂 吉三郎	三菱商事(株)	繊維原料資材部・部長代行
〃	佐藤 良蔵	三井物産(株)	関西ライフスタイル部・主管
〃	金井 譲介	西田通商(株)	大阪事業部・部長
〃	清水 孝	住金物産(株)	繊維企画部・参事
〃	山本 英亮	(株)トーマン	繊維企画部・部長代理
〃	安友 兼一	八木通商(株)	執行役員

輸出

組合業務報告

## ◎ 繊維品輸出荷主連合会（TSA）、第 19 回通常総会を開催（輸出組合）

繊維品輸出荷主連合会（TSA）の第 19 回通常総会が本年 6 月 28 日（火）正午、本組合会議室で開催された。出席者は、会員総数 18 社のうち、13 社（書面出席を含む）であった。

総会は、内海会長（輸出組合専務理事）が議長となり、開会。以下の第 1 号～第 6 号議案について審議し、いずれも満場一致をもって原案通り承認された。



- 第 1 号議案 平成 16 年度事業報告書及び収支計算書等承認に関する件
- 第 2 号議案 平成 16 年度剰余金処分（案）承認に関する件
- 第 3 号議案 平成 17 年度事業計画（案）設定承認に関する件
- 第 4 号議案 平成 17 年度収支予算（案）設定承認に関する件
- 第 5 号議案 平成 17 年度における TSA の会費徴収保留に関する件
- 第 6 号議案 平成 17 年度役員選任に関する件

なお、平成 17 年度の役員を選任した結果、以下のとおり、理事、監事とも前年に続き留任となった。

理事：蝶理株式会社、日貿株式会社、新興産業株式会社

監事：NI 帝人商事株式会社、株式会社野澤組

その他、北米航路等の運賃修復問題及び国内港湾の視察、見学会開催について、情報・意見交換が行われた。

## －輸入組合「2005年度組合運営タスクフォース（第6次）」を設置－

日本繊維輸入組合

昨年度の輸入組合「第5次組合運営に関するタスクフォース」による報告書を受け、本年度は「2005年度組合運営タスクフォース（第6次）」が設置された。以下は当該第6次タスクフォース設置の概要である。

「2005年度組合運営タスクフォース（第6次）」設置概要

## 1.設置の趣旨

「第5次組合運営に関するタスクフォース」（以下「タスクフォース」と省略）の報告書（2005年4月15日）において、今後も継続設置されることが望ましいとされ、その理由を「クォータフリーや FTA 協定など新しい繊維貿易環境のもとでのより機動的で積極的な組合活動が求められている。」と報告されている。

この報告書に沿い、各課題を検討し企画委員会に報告するため、2005年度も引き続き「タスクフォース」を設置する。

## 2.構成メンバー

第5次タスクフォースの構成メンバーの組合員会社に引き続き依頼し、更に企画委員会から新たな参加希望者があればメンバーを追加する。

議長は、次期企画委員長会社のメンバーが就任する。

## 3.具体的な検討課題

- (1) 組合運営効率化、機能強化等の検討と対応
- (2) 輸入組合の中期収支見通しのリバイス
- (3) 前年度事業の継続と実施
  - ・ 繊維消費動向調査
  - ・ 中国の OEM 生産に絡む商標法に関する情報収集
  - ・ 中国の移転価格税制に関する情報収集
- (4) 2005年度に事業強化すべき課題
  - ・ 繊維貿易政策等研究プロジェクトの実施
    - ① 中国の繊維通商問題と政策の現状及び今後の動向
    - ② FTA 協定締結と域内、域外繊維貿易拡大の可能性
    - ③ クォータフリー後の世界の繊維貿易動向とその変化
    - ④ クォータフリー後の我国の繊維輸入動向
    - ⑤ 輸入取引相手国多角化と取引相手国への協力のあり方
  - ・ 中国の繊維情報に関する情報収集力の強化と政策変更等に関する対応強化

輸入

組合業務報告

－2005 年度アパレル委員会海外調査ミッション実施概要報告－

日本繊維輸入組合

輸入組合・アパレル委員会では我が国市場への繊維品供給先の多角化を図るという観点から海外ミッション派遣を委員会事業活動の一環として実施している。今年度は6月18日（土）～6月26日（日）にかけて中欧（オーストリア・ハンガリー・ブルガリア）へミッションを派遣した。以下はその概要である。

2005 年度アパレル委員会海外調査ミッション

1. 実施時期 : 2005 年 6 月 18 日（土）～6 月 26 日（日）・9 日間
2. 派遣先 : 中欧(オーストリア、ハンガリー、ブルガリア)
3. 団員構成 : アパレル委員会委員（尾川委員長団長、12 名）及び、事務局 1 名
4. 内 容 :

アパレル委員会では、輸入の拡大とグローバル化の進展に伴い、我が国市場への供給先の多角化を図るという観点から、中国を除くアジア・欧米市場、及びその周辺地域を対象に、アパレル生産状況、貿易、市場動向の実態調査を目的とした海外ミッション派遣を委員会事業活動の一環として実施している。

本年度については、中欧に近接する地理的条件、整備されたインフラなどをメリットに、西欧と中欧市場をつなぐ「ハブ・センター」として位置するオーストリア、2004 年 5 月に EU 加盟した隣接するハンガリー、2007 年 EU 加盟予定のブルガリアを訪問し、各々現地生産、及び、市場の実情等の調査を目的とした海外調査ミッションを派遣した。

現地調査活動及び関係協力機関は以下のとおり。

－現地調査活動－

現地関係機関等訪問・懇談、情報・資料収集

縫製工場訪問見学、小売市場動向調査

現地駐在商社員との懇談、情報収集等

－関係協力機関－

駐日(オーストリア、ハンガリー、ブルガリア)大使館、伊藤忠ハンガリー社

Austrian Federal Economic Chamber-Austrian Trade

Austrian Clothing Industry Association

Bulgarian Association of Apparel and Textile Producers and Exporters

◇団員名簿

氏名	委員会	会社名	役職	所在地
団長 尾川 勝也	委員長	三菱商事(株)	繊維本部戦略企画室長	東京
伊東 克彦	副委員長	三井物産(株)	ライフスタイル事業本部ブランドインポート部長	東京
長田 伸一	副委員長	伊藤忠商事(株)	ファッションアパレル部門長補佐	大阪
江尻 博秋	副委員長	丸 紅 (株)	繊維部門 部門長代行	東京
重松 守	副委員長	兼松繊維(株)	執行役員 営業推進 担当	東京
森 洋二	副委員長	住金物産(株)	繊維カンパニー メンズ衣料第一部長	大阪
木村 博人	(副委員長)	(株) ト ー メ ン	繊維本部長 補佐(海外担当)	大阪
野村 幸司	委 員	モ リ リ ン (株)	常務取締役	名古屋
泉 潔	委 員	(株) ナ イ ガ イ	海外事業部事業部長	東京
山本 正雄	委 員	住友商事(株)	ファッションアパレル事業部参事	東京
横山 祐司	委 員	豊田通商(株)	繊維部 主査	東京
森本 審	(委 員)	興 和 (株)	繊維事業部 アパレル第一部 第一課課長	東京
市川 順一	事務局		参事	東京

◇日程表

日数	月/日(曜)	訪問国	摘要(移動・都市、現地活動)
1	6/18(土)	出 国	成田発→ フランクフルト経由、ウイーン着
2	6/19(日)	オーストリア	ウイーン市内、市場調査活動
3	6/20(月)	オーストリア ハンガリー	オーストリア連邦産業院訪問、アパレル産業協会会員との懇談会 ハンガリー現地商社駐在員との懇談会
4	6/21(火)	同 上	ハンガリー(Szombathely)・アパレル工場(STYL 社)訪問・見学、懇談
5	6/22(水)	ブルガリア	ウイーン→ソフィア移動 ブルガリア・繊維アパレル製造・輸出協会長ほかとの懇談会(WTC)
6	6/23(木)	同 上	アパレル工場(MIZIA, MANEVA-TOMIK/Pleven, ROSIEA/Sevlievo) 訪問・見学、懇談
7	6/24(金)	同 上	ソフィア→ウイーン移動、市場調査活動
8	6/25(土)	オーストリア	ウイーン発→パリ経由
9	6/26(日)	帰 国	成田着

輸入

組合業務報告

－2005 年度絹委員会訪中ミッション派遣概要－

日本繊維輸入組合

輸入組合・絹委員会では 2005 年 1 月からシルクの輸入管理体制が自由化された機会に、今後の展望も含め、中国の主要シルク産地の最大輸出企業との意見交換と市場調査を行うためミッションを派遣した。概要は以下のとおりである。

2005 年度絹委員会訪中ミッション派遣概要

1. 実施時期：2005 年 6 月 23 日（木）～6 月 28 日（火）
2. 派遣先：中国（山東省、江蘇省、浙江省）
3. 団員構成：川村委員長以下 5 名
4. 派遣理由：

2005 年 1 月からシルクの輸入管理体制が自由化され、特にそのほとんどを占める中国のシルク製品に対するビジネスチャンスが到来することになった。また、対日向けの粗原料の輸出においても、従来の枠内商売から脱してわが国が求める商品への輸出戦略の変更による新たな品質改善、開発が一段と進捗しつつある。この機会に今後の展望も含め中国の主要シルク産地の最大の輸出企業との意見交換および市場調査を行った。

5. 日程表：

日程	時間	概要	備考
6 月 23 日 (木)	09:25～11:40	成田発（JL783 便）～青島着	専用車で移動 青島泊
	10:20～12:30	関空発（NH157 便）～青島着	
	15:00	山東省国際経済貿易委員会表敬訪問	
	16:00	山東省絲綢進出口公司、青島海潤投資集団と懇談	

6月24日 (金)	午前 14:30～15:40  17:00	新華錦集團と懇談、市内工場視察 青島発（SC4605便）～南京着  江蘇省絲綢進出口公司、江蘇蘇豪國際集團 股份公司と懇談	専用車で移動  南京泊
6月25日 (土)	終日	工場視察	専用車で移動 南京泊
6月26日 (日)	08:30～11:30 午後	南京発～無錫～蘇州着 工場視察	専用車で移動 蘇州泊
6月27日 (月)	08:30～15:00  16:00	蘇州発～桐郷～杭州着 工場視察  浙江省絲綢進出口公司、浙江凱喜國際股份 有限公司と懇談	専用車で移動  杭州泊
6月28日 (火)	13:00～17:00 13:40～16:55	杭州発（JL636便）～成田着 杭州発（NH952便）～関空着	専用車で移動

6. 団員名簿：

訪中国絹委員会市場調査小組

	氏名	組合役職	会社名	会社役職	帰属
団長	川村 孝 KAWAMURA TAKASHI	委員長	(株)G S Iクレオス	繊維貿易部 東京営業課長	東京
団員	吉岡 正博 YOSHIOKA MASAHIRO	副委員長	北西産業(株)	代表取締役 社長	神戸
〃	関 俊夫 SEKI TOSHIO	〃	太洋物産(株)	生活産業部 部長	東京
〃	鳥谷 正寛 TORIYA MASAHIRO	〃	N I 帝人商事(株)	大阪アパレル第一部 第二課 主事	大阪
〃	神保 敬一 JIMBO KEIICHI	事務局	日本繊維輸入組合	参事	東京
〃	森 昇 MORI NOBORU	〃	〃	主事	東京

－寝具インテリア委員会の「インテリアライフスタイル 2005」への出展概要－

日本繊維輸入組合

輸入組合「寝具インテリア委員会」は本年6月8日～10日まで東京国際展示場で開催された「インテリアライフスタイル 2005」へ出展し、委員会社5社が協同で「輸入組合ブース」にて展示を行い、PR活動を行った。出展概要は以下のとおりである。

「インテリアライフスタイル 2005」出展概要

展示会名称：「インテリアライフスタイル 2005」

- アンビエンテ・ジャパン（生活用品・インテリア国際見本市）
- ハイムテキスタイル・ジャパン（ホームテキスタイル国際見本市）
- ホームデザイン・ジャパン（インテリアデザイン国際見本市）

会 期：2005年6月8日（水）から10日（金）

午前10時より午後6時（最終日午後4時30分終了）

場 所：東京国際展示場（東京ビッグサイト）西1・2ホールおよびアトリウム

主 催：メサゴ・メッセフランクフルト株式会社

出展者数：455社/24ヶ国・地域

来場者数：20,518人/35ヶ国・地域

組合ブース：西2ホール（2T01、4小間）

出展組合員：伊藤忠商事(株)、丸紅(株)、西田通商(株)、NI帝人商事(株)、(株)トーメン

展 示 商 品：高機能寝装品、リサイクル可能カーペット、特殊加工羽毛製品、ベビー関連用品などを紹介

組合員出展企業の主要商品

- ・ 伊藤忠商事 --- NASA 開発の高機能 PP 掛け布団等
- ・ 丸紅 --- 赤ちゃん・子供向け視覚・聴覚からの睡眠導入玩具等
- ・ 西田通商 --- PP カーペットに泥取り加工を施したタイルカーペット等
- ・ NI帝人商事 --- 高機能寝装品等
- ・ トーメン --- ダウンに遠赤外線加工を施した製品等

輸入

組合業務報告

－東京・名古屋・大阪で「貿易実務の基礎研修会」を開催－

輸入組合は本年 6 月、東京・名古屋・大阪地区で「貿易実務の基礎研修会」(大谷講師)を開催した。開催概要及び講演項目は以下のとおりである。

「貿易実務の基礎研修会」

〈開催概要〉 講 師：ジェトロ認定貿易アドバイザー 大谷 巖 氏

**東京地区** 日 時：2005 年 6 月 3 日 (金) 10:00 ～ 16:00  
場 所：東京ファッションセンター (TFT ビル) 会議室  
聴講者：137 名

**名古屋地区** 日 時：2005 年 6 月 8 日 (水) 10:00 ～ 16:00  
場 所：パレロワイヤル・シャンテ  
聴講者：38 名

**大阪地区** 日 時：2005 年 6 月 9 日 (木) 10:00 ～ 16:00  
場 所：輸出繊維会館 BM 大ホール  
聴講者：175 名

〈講演項目〉

序 章 はじめに

第一章 市場と調査

- A. 商品と海外市場調査 B. 取引商品・パートナーの見つけ方
- C. 信用調査

第二章 貿易取引の形態

- A. 直接貿易と間接貿易 B. 代理店取引 C. 一手販売取引

第三章 引合から契約まで

- A. 価格算出 1. 輸出価格の構成 2. 輸入価格の構成
- B. 取引条件 1. 品質条件 2. 数量条件 3. 価格条件 4. 受渡条件
- 5. 決済条件 6. その他の条件
- C. 引合い
- D. オファー・カウンターオファー
- E. 契約成立



	F. 貿易の流れ
第四章	インコタームズ (International Commercial Terms)
第五章	貿易貨物の輸送
	A. 海上輸送
	B. 航空運送 1. 直送貨物の運送 (一般貨物)
	2. 混載貨物の運送
	C. 国際複合一貫運送(International Multimodal [ or Combined] Transport)
第六章	船積書類 (Shipping Documents)
	A. 船荷証券 (Bill of Lading)
	1. 指図式(Order B/L) と記名式 Straight B/L)
	2. 船積 B/L(Shipped B/L) と受取 B/L Received B/L)
	3. 無故障 B/L( Clean B/L)と故障付 B/L(Foul B/L)]
	4. 遅延 B/L (Stale B/L)
	5. 通し B/L ( Through B/L)
	6. 複合輸送 B/L(Combined Transport B/L)
	7. 海上貨物輸送状(Sea Waybill)
	8. 航空貨物輸送状(Air Waybill)
	9. 航空貨物輸送状(Air Waybill)
	B. 商業送り状(Commercial Invoice)
	C. 梱包明細 (Packing List)
	D. 保険証券(Insurance Policy)
第七章	取引決済方法
	A. 信用状付き為替手形決済
	1. 信用状の意義 2. 信用状の種類 3. 信用状発行及び接受時の留意事項
	4. 信用状の開設 5. 条件不一致 (Discrepancy)
	B. 信用状なしの為替手形決済
	1. D/P 決済 2. D/A 決済
	C. 為替手形無しの決済
第八章	保険
	A. 海上保険
	1. 共同海損と単独海損 2. 単独海損分損不担保 (FPA)
	3. 単独海損分損担保 (WA) 4. 全危険担保 (A/R)
	5. 戦争保険とストライキ保険
	6. 保険の始期と終期 7. 予定保険
	8. クレーム提起と保険金請求
	B. 貿易保険
	C. 製造物賠償責任保険 (PL 保険: Product Liability Insurance)

- 第九章 外国為替
- A. TTS と TTB
  - B. 為替先物予約
  - C. 為替リスク回避策
  - D. 採算レート
  - E. 改正外為法
- 第十章 貿易関係法規
- A. 外為法による規制・管理
    - 1. 輸出管理・規制（輸出貿易管理令）
    - 2. 輸入管理・規制（輸入貿易管理令）
  - B. 輸出入取引法による管理
  - C. 国際条約・協定による管理・規制
- 第十一章 関税制度
- A. 関税三法
    - 1. 関税法
    - 2. 関税定率法
    - 3. 関税暫定措置法
  - B. 関税率
  - C. 特別な関税制度
    - 1. 特恵関税制度
    - 2. 関税割当制度
    - 3. 簡易税率制度
    - 4. 特殊関税
- 第十二章 輸出入通関と船積み・荷受の手順
- A. 輸出通関
  - B. 船積み手順と書類の流れ
  - C. 輸入通関
  - D. 輸入貨物の荷受（コンテナ船の場合）
  - E. 保税地域
- 第十三章 クレームとその解決
- A. 貿易クレーム
    - 1. 品質に関するクレーム
    - 2. 数量に関するクレーム
    - 3. 貨物受渡しに関するクレーム
    - 4. 価格決済に関するクレーム
    - 5. マーケット・クレーム (Market Claim)
  - B. クレーム解決法
    - 1. 和解
    - 2. 調停
    - 3. 仲裁
    - 4. 訴訟

◎ 大阪で「外国為替の基本」講習会を開催（輸出入組合）

輸出組合、輸入組合および社団法人テキスタイル倶楽部の3団体は、組合員・会員の若手社員・新入社員に対する教育補完の一環として、本年6月23日、大阪の輸出繊維会館ホールにおいて、「外国為替の基本」講習会を開催した。講習会参加者は133名に達した。

「外国為替の基本」講習会

1. 日 時 平成17年6月23日（火）午後1時～午後5時
2. 場 所 大阪市中央区備後町3丁目4-9 輸出繊維会館中地階ホール
3. 受講料 無 料
4. 講 師 (株)東京リサーチインターナショナル大阪貿易投資相談所  
次長 平尾 喜代次 氏
5. 講習項目
  - (1) 為替
  - (2) 国際収支
  - (3) 並為替による国際決済
  - (4) 逆為替による国際決済
  - (5) 商業信用状
  - (6) 外国払い小切手
  - (7) 両替
  - (8) 為替相場
  - (9) 外国為替法

## 輸出入

### 組合業務報告

#### ◎ 東京で「繊維の基礎知識」研修会を開催（輸出入組合）

輸出組合と輸入組合は、組員・会員の若手社員・新入社員に対する教育補完の一環として、本年7月5日、6日の両日にわたり、東京のTFTビル研修室において、「繊維の基礎知識」研修会を開催した。研修会参加者は5日が113人、6日が94人と多数参加された。

#### 「繊維の基礎知識」研修会

1. 日時：2005年7月5日（火）、6日（水） 13：30 ～ 16：30
2. 場所：東京・有明 TFTビル 906 研修室
3. 講師及び研修項目

第1日 7月5日（火） 13：30 ～ 16：30

（財）日本繊維製品品質技術センター 佐藤時次郎 氏

#### 繊維製品の基礎知識

1. 製品化 -- 生産工程、延反・裁断、縫製・仕上げ
2. 検品 -- 商品チェックのフローチャート、商品欠陥について、チェックポイント
3. 表示 -- 表示の対象一覧表--組成、取扱い、撥水、原産国、サイズ
4. 安全性 -- 繊維製品の加工剤に関する法律規則、ホルムアルデヒド、環境ホルモン

第2日 7月6日（水） 13：30 ～ 16：30

（財）日本繊維製品品質技術センター 岡崎弘司 氏

#### 繊維製品の苦情、基準その他

##### 〈アパレル編〉

1. 製品品質基準 -- 表示・外観・縫製・耐洗濯性、耐洗濯性（寸法変化）、寸法変化の測定部位
2. 生地品質基準 -- 染色堅牢度、物性及び安全性、衣料品の区分と試験項目、用語  
付則：洗濯後の外観判定運用基準

##### 〈生活用品編〉

1. 靴品質基準 -- 表示事項、製品検査、染色堅牢度、物性及び安全性
2. 傘品質基準 -- 同 上
3. ベルト品質基準 -- 同 上
4. バッグ・財布品質基準 -- 同 上



◎ 繊維品の包括保険の「保険責任期間終了」と「保険期間延長手続き」（輸出組合）

以下に掲げる保険申込書の「保険責任期間」が、平成 17 年 8 月末日に終了しますので、延長を必要とするものがありましたら、必要書類を添付の上、組合に申請してください。  
保険責任期間が「6 ヶ月」延長されます。

\* 平成 17 年 2 月に新規提出された決済条件が、「前受け」のもの

\* 平成 16 年 8 月に新規提出された決済条件が、「前受け」以外のもの

**（注） 当初の保険責任期間は「前受け」6 ヶ月、「前受け以外」12 ヶ月  
となっております。**

1. 提出期限：平成 17 年 8 月 22 日（月）
2. 提出書類：① 貿易一般保険包括保険（繊維品）  
保険期間延長依頼書 ..... 2 通  
（用紙は事務局で準備しています。）  
② 延長を必要とする包括保険申込書のコピー .. 1 通
3. 提出先：保険部（☎06-6201-1832）

なお、延長手続きの FAX による申込みも可能です。（FAX:06-6201-1814）  
保険期間終了の保険申込書番号は以下の通りです。

**前受けに係る 2005 年 2 月度受付保険申込書番号**

受付局区分 記号	大 阪	東 京	名 古 屋
J T - 0 5	100871～ 101562 ----- 500822～ 501749	100370～ 100631	100062～ 100083

**前受け以外に係る 2004 年 8 月度受付保険申込書番号**

受付局区分 記号	大 阪	東 京	名 古 屋
J T - 0 4	106137～ 107053 ----- 506430～ 507199	102479～ 102797	100300～ 100352

## お知らせ

### ◎ 「ペルー」向け他6カ国の保険引受方針の変更（輸出組合）

独立行政法人日本貿易保険（NEXI）から、“「ペルー」（国コード：407）向け他6カ国の繊維包括保険の引受方針及び国倍率を変更し、実施日より適用する”旨連絡がありましたので、通知します。この結果、以下の取扱いとなります。

#### 1. 条件付引受国から通常国に緩和（2カ国）

国コード	国名	国倍率
407	ペルー	3.8倍（旧4.5倍）
612	フィジー	3.8倍（旧4.5倍）

#### 2. 国倍率の緩和

国コード	国名	国倍率
305	メキシコ	2.0倍（旧3.0倍）

#### 3. 国倍率及び引受条件（条件付引受け国4カ国）

国コード	国名	国倍率	引受限度額	ILC取得条件
308	ベリーズ	8.0倍（旧6.0倍）	1億円（旧10億円）	有り（据置）
411	パラグアイ	6.0倍（旧8.0倍）	5億円（旧1億円）	有り（据置）
531	ガボン	6.0倍（旧8.0倍）	10億円（旧5億円）	有り（据置）
323	ドミニカ共和国	6.0倍（据置）	10億円（旧1億円）	無し（据置）

\* 国倍率（地域差料率）とは、非常危険てん補に係る保険料計算に適用される基本料率に対して掛けられる倍率です。（以下、同じ。）

なお、ユーザンスが6ヶ月を超えるものは、ベルン・ユニオンのルールに基づき、従来どおり引受けられません。（以下、同じ。）

#### 4. 実施日：平成17年6月27日

## お知らせ

### ◎ 「アンゴラ」向け他1カ国の保険引受方針の緩和（輸出組合）

独立行政法人日本貿易保険（NEXI）から、“「アンゴラ」（国コード：535）向け他1カ国の繊維包括保険の引受方針を緩和し、実施日より適用する”旨連絡がありましたので、通知します。この結果、以下の取扱いとなります。

#### 1. 条件付引受停止国から条件付引受国に緩和

国コード	国名	国倍率	引受限度額	ILC取得条件
535	アンゴラ	8.0倍（据置）	5億円	有り
545	モザンビーク	8.0倍（据置）	5億円	有り

#### 2. 実施日：平成17年7月5日

## お知らせ

### －8月の輸入通関手続相談窓口開設日－

8月の輸入通関手続相談窓口は下記要領により開設します。  
申告手続、品目分類、関税評価、暫8手続等々通関業務諸問題  
についてご相談の向きはご連絡下さいますようお願い申し上げます。

#### 記

1. 開催日 2005年8月10日（水）及び8月24日（水）
2. 場所 日本繊維輸入組合 東京本部
3. 時間 午後1時より午後5時まで
4. アドバイザー 片山 喬次  
(元東京税関関税評価部門特別価格審査官)
5. 連絡先

Tel 番号 03 (3270) 0791

Fax 番号 03 (3243) 1088

E-Mail 0023@j t i a . o r . j p (片山)

なお、事前の面談申込みや相談窓口開設日以外のお問合わせ、  
ご質問につきましては、事務局がお取次ぎ致しますので、本件  
事務局担当：国信までご連絡下さい。

以 上

## 組合員情報

### ○ 組合員の脱会

(輸 出) 森 下 株式会社 (2005年7月27日付)

(輸 入) 株式会社 谷口絹織 (2005年6月16日付)



取引照会・展示会案内

〔原文は、輸入及び展示会は輸入組合・市場対策室(Tel:06-6202-5575)に保管していますので、必要な向きはご照会下さい。また、輸出の詳細は同組合のホームページ(<http://www.jtea.or.jp>)をご覧ください。〕

<p><b>輸入</b></p> <p>No.4289 <u>台湾</u> 織物</p> <p>会社名 : LEEOTEX INDUSTRIES INC.</p> <p>住所 : 2A-33, No.5, Sec.5, Hsin-Yi Road, Taipei, Taiwan, R.O.C.</p> <p>担当者 : Mr. Bernice Liu</p> <p>F A X : 886-2-8789-0911</p> <p>T E L : 886-2-8789-1206</p> <p>品 目 : 100% Polyester, 100% Nylon, T/R, N/R, Blend Woven Fabrics.</p>
<p><b>輸入</b></p> <p>No.4290 <u>香港</u> ティシャツ、下着</p> <p>会社名 : GOOD POINT CLOTHING EXPORT LIMITED</p> <p>住所 : Unit 1301, Lemmi Ctr, 50 Hoi Yuen Road, Kwun Ton, Hong Kong</p> <p>担当者 : Mr. Daniel Hung</p> <p>F A X : 852-3102-0201</p> <p>T E L : 852-3102-0200</p> <p>品 目 : T-Shirts and Underwears.</p>
<p><b>輸入</b></p> <p>No.4291 <u>パキスタン</u> 織物、衣料品、家庭用品</p> <p>会社名 : MAGNI PAK</p> <p>住所 : 30W 7 Madina Town, (P.O.Box #644) Faisalabad-38060, Pakistan</p> <p>担当者 : Mr. Umar Hayat, Presiden</p> <p>F A X : 92-41-871-3339</p> <p>T E L : 92-41-871-3338</p> <p>品 目 : Woven Fabrics, Knitted Garments, Towels, Table Cloth, Sports Gloves, etc.</p>
<p><b>輸入</b></p> <p>No.4292 <u>バングラデシュ</u> 綿織物</p> <p>会社名 : SAKIB TEXTILE MILLS</p> <p>住所 : 4, Kumartuly Lane (2nd Floor), Islampur, Dhaka-1100, Bangladesh</p> <p>担当者 : Mr. Ferdous Mullick, Marketing Manager</p> <p>F A X : 880-2-739-3867</p> <p>T E L : 880-2-739-2034</p> <p>品 目 : 100% Cotton Twill, Poplim, Canvas, Sheeting.</p>
<p><b>輸入</b></p> <p>No.4293 <u>イタリア</u> 衣料品</p> <p>会社名 : C.S.C.E. SRI TRADING COMPANY</p> <p>住所 : Via Anita Garibaldi, 12, 47100 Forli' Fc, Italy</p> <p>担当者 : Mr. Tizano Pantoli</p> <p>F A X : 0039-0543-457609</p> <p>T E L : 0039-0543-370268</p> <p>品 目 : Woven/Knit Dresses, Skirts, Trousers, Jackets, Leather Garments, etc.</p>

《国内》

No.1053 インド

第26回インド衣料品展

会期：2005年8月30日(火)～9月1日(木) 9:30～17:30  
(但し、8月30日は、9:30～10:30まで開会式)

会場：マイドームおおさか2階

主催：インド貿易振興局

後援：外務省、経済産業省、大阪府、神戸市、日本貿易振興機構、日本繊維輸入組合

出展社数：約55社

展示商品：紳士・婦人・子供用各種アパレル、バッグ、アクセサリ、衣料用生地等

問い合わせ先：インド貿易振興局(Tel:03-3436-5060)